

資料編

資料 1

大郡教総第 12 号

平成30年 6月 5日

大和郡山市学校規模適正化等審議会

会長 恒岡 宗司 様

大和郡山市教育委員会

諮 問 書

全国的な少子化の進展に伴う学校の小規模化に伴い、教育上・学校運営上の様々な課題が指摘されています。本市においても、児童・生徒数は減少傾向にあり、その傾向は今後も続くものと思われまます。

児童生徒の望ましい教育環境の確保と、少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて、ご意見を伺いたく、下記の事項について諮問します。

諮問事項

- 1 大和郡山市立小・中学校の学校規模・学校配置の適正化についての基本的な考え方に関すること

大和郡山市学校規模適正化等審議会委員名簿

《平成30年度》

区 分	氏 名	所 属
学識経験を有する者	恒岡 宗司	奈良学園大学奈良文化女子短期大学部幼児教育学科教授
〃	石川 泰弘	元教育委員会委員
市議会議員	北野 伊津子	大和郡山市議会議員(教育福祉常任委員長)
学校関係者	松原 義文	大和郡山市校園長会
PTAの代表者	藤田 真司	大和郡山市PTA連合協議会
自治会の代表者	植村 俊博	大和郡山市自治連合会
その他教育委員会が必要と認める者	吉村 安伸	大和郡山市 副市長
	西尾 卓哉	大和郡山市 総務部長

《令和元年度》

区 分	氏 名	所 属
学識経験を有する者	恒岡 宗司	奈良学園大学特別客員教授
〃	石川 泰弘	元教育委員会委員
市議会議員	西村 千鶴子	大和郡山市議会議員(教育福祉常任委員長)
学校関係者	高見澤 聡	大和郡山市校園長会
PTAの代表者	勝川 洋	大和郡山市PTA連合協議会
自治会の代表者	植村 俊博	大和郡山市自治連合会
その他教育委員会が必要と認める者	吉村 安伸	大和郡山市 副市長
	西尾 卓哉	大和郡山市 総務部長

大和郡山市学校規模適正化等審議会条例

(設置)

第1条 大和郡山市立小学校及び中学校（以下「学校」という。）の適正規模及び適正配置等について調査審議するため、地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3項の規定に基づき、大和郡山市学校規模適正化等審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 審議会は、大和郡山市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の諮問に応じて、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 学校の適正規模及び適正配置に関すること。
- (2) 学校の将来構想に関すること。
- (3) その他教育委員会が必要と認める事項

2 審議会は、前項各号に掲げる事項について、教育委員会に意見を述べることができる。

(組織)

第3条 審議会は、委員8人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱又は任命する。

- (1) 市議会議員
- (2) 学識経験を有する者
- (3) 学校関係者
- (4) P T Aの代表者
- (5) 自治会の代表者
- (6) その他教育委員会が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第5条 審議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、審議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 審議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集し、会長は会議の議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 審議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 前項の場合において、議長は委員として議決に加わることができない。

(関係者の出席)

第7条 審議会は、必要があると認めるときは、関係者に対し、会議に出席を求めて意見若しくは説明を聴き、又は必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第8条 審議会の庶務は、教育委員会事務局教育総務課において行う。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

1 この条例は、平成30年4月1日から施行する。

2 この条例の施行後、最初に行われる審議会は、第6条第1項の規定にかかわらず、教育委員会が招集する。

(大和郡山市の非常勤の特別職の職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

3 大和郡山市の非常勤の特別職の職員の報酬及び費用弁償に関する条例（昭和31年11月大和郡山市条例第24号）の一部を次のように改正する。

第1条に次の1号を加える。

(72) 大和郡山市学校規模適正化等審議会の委員

別表第1に次のように加える。

72	大和郡山市学校規模適正化等審議会の委員	日額 13,800円
----	---------------------	------------

大和郡山市学校規模適正化等審議会 開催経過

資料4

	時期	審議会 議題 (視察含む全9回)
平成 30 年度	6月5日	第1回審議会 内容 ・委員の委嘱又は任命 ・教育長あいさつ ・委員の紹介 ・会長、副会長の選出 ・教育委員会からの諮問 ・学校規模適正化等審議会の傍聴に関する規則について ・開催スケジュールについて ・学校を取り巻く現状について
	8月21日	第2回審議会 ・視察について ・校長へのアンケート(案)について
	11月20日	第3回審議会 ・学校視察(治道小学校、郡山東中学校)
	1月22日	第4回審議会 ・学校視察報告 ・学校長へのアンケート調査結果について ・市民へのアンケート(案)について
令和 元 年度	5月28日	第5回審議会 ・市民へのアンケート結果について ・学校長・市民アンケート結果のまとめ
	7月30日	第6回審議会 ・新学習指導要領の目指す教育について ・市民アンケートについての意見交換 ・答申の構成(案)について
	10月29日	第7回審議会 ・答申(案)に向けての意見のまとめ ・意見交換
	12月26日	第8回審議会 ・学校規模適正化等審議会答申(会長私案)について ・意見交換
	2月4日	第9回審議会 ・学校規模適正化等審議会答申(案)について ・意見交換 →教育委員会へ答申書の提出

■小学校別学年別児童数、学級数（平成 30 年 5 月 1 日現在）

		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	小計	特別支援学級	合計
郡山南小	児童数	101	87	108	108	91	114	609	20	629
	学級数	3	3	3	3	3	4	19	4	23
筒井小	児童数	55	49	69	68	61	56	358	12	370
	学級数	2	2	2	2	2	2	12	4	16
矢田小	児童数	31	28	37	38	45	43	222	3	225
	学級数	1	1	1	2	2	2	9	2	11
平和小	児童数	37	46	36	50	47	57	273	10	283
	学級数	2	2	1	2	2	2	11	2	13
治道小	児童数	11	22	13	12	9	20	87	5	92
	学級数	1	1	1	1	1	1	6	1	7
昭和小	児童数	65	51	62	65	68	50	361	22	383
	学級数	3	2	2	2	3	2	14	5	19
片桐小	児童数	58	66	58	61	65	72	380	19	399
	学級数	2	2	2	2	3	3	14	4	18
郡山北小	児童数	95	105	85	85	90	94	554	20	574
	学級数	3	4	3	3	3	3	19	4	23
片桐西小	児童数	55	73	67	77	73	80	425	18	443
	学級数	2	3	3	3	3	3	17	3	20
郡山西小	児童数	94	72	78	68	84	71	467	16	483
	学級数	3	3	3	3	3	3	18	4	22
矢田南小	児童数	38	33	52	44	51	55	273	7	280
	学級数	2	1	2	2	2	2	11	2	13

■中学校生徒数、学級数の推移

施設名	項目	H20	H25	H30	H35	H40	H45	増減数	増減率
郡山中	生徒数	808	814	734	771	725	637	▲ 171	79%
	学級数	23	25	21					
郡山南中	生徒数	491	598	554	459	407	357	▲ 134	73%
	学級数	15	18	17					
郡山西中	生徒数	356	324	344	263	233	201	▲ 155	56%
	学級数	12	11	12					
郡山東中	生徒数	266	209	177	179	123	116	▲ 150	44%
	学級数	9	7	6					
片桐中	生徒数	330	307	281	284	236	195	▲ 135	59%
	学級数	12	11	9					
合計	生徒数	2251	2252	2090	1956	1724	1506	▲ 745	67%
	学級数	71	72	65					

※学級数は特別支援学級の数を除く

※増減数及び増減率は、H45（推計）とH20を比較

H35は、住民基本台帳をもとに、公私の入学率を加味したもの

H40, 45は直近10年の出生数をもとに、減少率（平均値）を計算し、公私の入学率を加味したもの

■中学校別学年別生徒数、学級数（平成 30 年 5 月 1 日現在）

		1	2	3	小計	特別支援学級	計
		郡山中	児童数	230	242	248	720
	学級数	7	7	7	21	3	24
郡山南中	児童数	167	178	192	537	17	554
	学級数	5	6	6	17	5	22
郡山西中	児童数	105	109	122	336	8	344
	学級数	4	4	4	12	3	15
郡山東中	児童数	56	54	64	174	3	177
	学級数	2	2	2	6	2	8
片桐中	児童数	90	90	91	271	10	281
	学級数	3	3	3	9	4	13

学校の適正規模・適正配置に関する
学校長アンケート調査結果

平成31年1月

大和郡山市学校規模適正化等審議会

I. 調査概要

■調査の対象

市内16校の小・中学校長

■調査の主な内容

- 1.自身が勤務する学校の規模についてどのように感じているか
- 2.選択された理由について、①教育活動・教育効果②教育環境ごとに回答
- 3.小学校・中学校の適正な規模（児童生徒数・学級数）について
- 4.上記について、選択した理由を各項目毎に回答
- 5.児童生徒の通学距離及び通学時間について
- 6.地域と学校の関わりについて
- 7.学校の小規模化が進む中、市として今後どのように検討を進めるべきか
- 8.教育環境の課題についての意見

■調査の目的

学校の小規模化が進む中、児童生徒にとって望ましい教育環境の確保と少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて、検討を進める際の参考資料とするため、実施したもの

■調査の方法

手渡しによる配付・回収

（9月上旬～9月末）

■回答結果の割合（％）

全学校数(16校)に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下四捨五入したものです。そのため、合計値が100%にならない場合があります。

Ⅱ. 調査結果

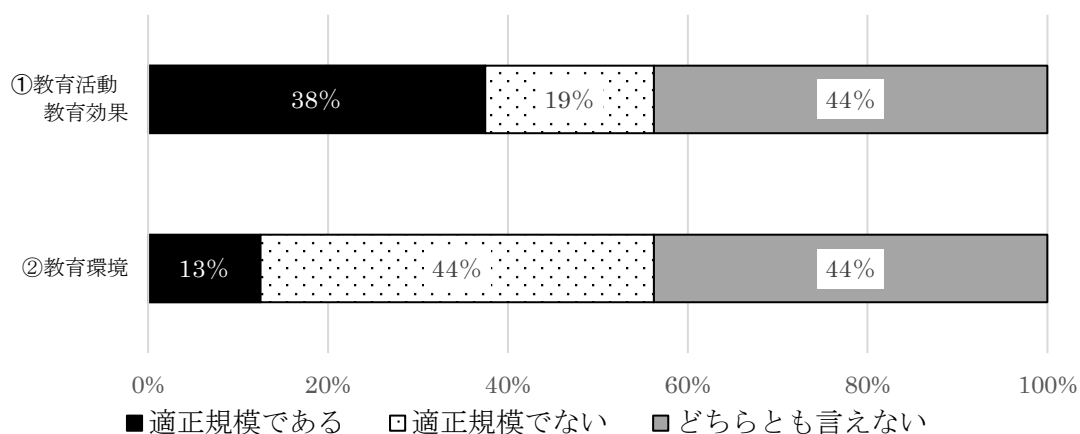
自校の1学級あたりの児童生徒数、学年あたりの学級数について

問1 自身が勤務する学校の1学級あたりの児童生徒数（平均）

（H30.9.1現在）

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	特別支援学級
郡山南小学校	33	28	36	36	30	28	5
筒井小学校	27	24	35	34	30	27	3
矢田小学校	31	28	37	19	22	21	1
平和小学校	19	23	36	25	24	28	5
治道小学校	11	21	13	11	9	19	2
昭和小学校	21	26	30	32	22	25	4
片桐小学校	29	33	29	30	21	24	4
郡山北小学校	32	28	28	30	30	33	5
片桐西小学校	27	24	22	25	24	26	6
郡山西小学校	31	24	26	23	28	24	4
矢田南小学校	19	33	25	22	25	27	3
郡山中学校	32	34	35	/			4
郡山南中学校	34	29	31				3
郡山西中学校	27	28	31				1
郡山東中学校	28	28	32				1
片桐中学校	30	30	31				3

問2 自身が勤務する学校の1学級あたりの児童生徒数について、①教育活動（授業、行事など）、教育効果（児童生徒の成長、能力発達など）②教育環境（施設、設備、教職員数）などの面から、それぞれどのように感じているか。



①教育活動、教育効果の面では「適正規模である」と答える割合が高かったのに対し、②教育環境の面では「適正規模でない」と答える割合が高かった。「どちらとも言えない」の割合は同じぐらいであった。

問3 問2の回答を選択したそれぞれの理由

①教育活動、教育効果

	小 学 校
適正規模である	<ul style="list-style-type: none"> ・授業が最も効果的に展開でき、保護者対応も丁寧に行える（25～30人） ・児童が互いに交流しながら活動するには適当な人数（30人前後） ・35人以上になると、施設設備面も含めて活動が適正に行えない
でない	<ul style="list-style-type: none"> ・きめ細やかな対応をすべく、少人数での指導が望ましい ・3年生の人数が37人、丁寧な指導を行っていく上では、人数が多すぎる
どちらとも言えない	<ul style="list-style-type: none"> ・30人を超える学級は、児童一人ひとりに丁寧な指導が行えない 2件 ・20～30人が適正である ・1学級平均35人の児童数は、指導に時間がかかるため多いと思うが、活発な意見交換には最低20人は必要 ・3～5年生の人数（22～25人）が、望ましいと考える

	中 学 校
適正規模である	<ul style="list-style-type: none"> ・1学級30人前後が、教育活動を行う上で適正な人数 ・生徒一人ひとりに目が行き届き、丁寧な指導が可能（約30人） ・生徒の活動状況が把握しやすい。クラス単位での活動時に個々が役割・存在感の意識を持ちやすい（30人前後）
でない	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の細かい成長や能力を伸ばさせるには、一学級あたりの生徒数（33～35人）が多すぎる
えない	<ul style="list-style-type: none"> ・2,3年生は少人数学級編成で適正と考えるが、1年生は少人数学級編成ではなく（34人）、多いと考える

②教育環境

	小 学 校
適正規模でない	<ul style="list-style-type: none"> ・学級数に比べ、特別教室などの部屋数が少ない ・きめ細やかな指導を行うには、教職員の数が少ない 2件 ・1学級あたりの人数が多いと（35人前後）、教室が狭い。机間巡視をしにくい ・教職員1人の負担を減らすためにも、複数学級（2～3）及び少人数学級編成が望ましい
どちらとも言えない	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の広さや設備について、30人以下であれば、余裕を持って様々な学習活動に使用できる。それを超えると窮屈な状態になる 5件 ・少人数学級を編成できるよう教職員の加配が望まれる 2件 ・担任以外の教員配置が少なく、人数の多い学級担任の負担が大きい 3件

※小学校については、適正規模であると回答した学校は無し

	中 学 校
適正規模である	<ul style="list-style-type: none"> ・教室の広さや設備など生徒が余裕をもって使用できる 2件
適正規模でない	<ul style="list-style-type: none"> ・今の人数ではどの学年も狭い（33～35人） ・スペース的には十分であるが、設備が老朽化し、今後は心配 ・教員数が少ない。教科の専門性が担保できない 2件

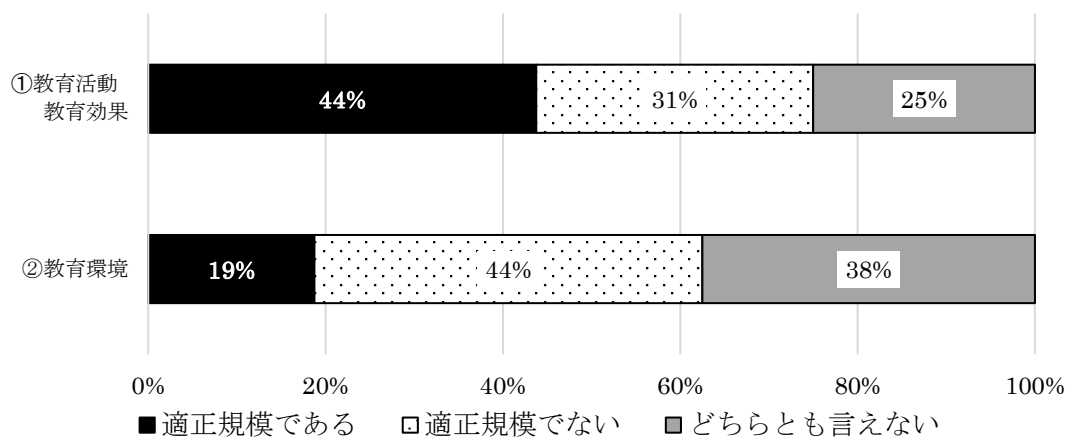
※中学校については、どちらとも言えないと回答した学校は無し

問 4 自身が勤務する学校の学年あたりの学級数

(H30.9.1現在)

	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年	特別支援学級	全学年
郡山南小学校	3	3	3	3	3	4	4	23
筒井小学校	2	2	2	2	2	2	4	16
矢田小学校	1	1	1	2	2	2	2	11
平和小学校	2	2	1	2	2	2	2	13
治道小学校	1	1	1	1	1	1	1	7
昭和小学校	3	2	2	2	3	2	5	19
片桐小学校	2	2	2	2	3	3	4	18
郡山北小学校	3	4	3	3	3	3	4	23
片桐西小学校	2	3	3	3	3	3	3	20
郡山西小学校	3	3	3	3	3	3	4	22
矢田南小学校	2	1	2	2	2	2	2	13
郡山中学校	7	7	7	/			3	24
郡山南中学校	5	6	6				5	22
郡山西中学校	4	4	4				3	15
郡山東中学校	2	2	2				2	8
片桐中学校	3	3	3				4	13

問 5 自身が勤務する学校の 1 学年あたりの学級数について、①教育活動（授業、行事など）、教育効果（児童生徒の成長、能力発達など）②教育環境（施設、設備、教職員数など）の面から、それぞれどのように感じているか



①教育活動、教育効果の面では「適正規模である」と答える割合が高かったのに対し、②教育環境の面では「適正規模でない」と答える割合が高かった。

問 6 問 5 の回答を選択したそれぞれの理由

①教育活動、教育効果

	小 学 校
適正規模である	<ul style="list-style-type: none"> ・複数の教員が協力して指導できる (2～3 学級) 2 件 ・規模が大きいことで、学校行事をダイナミックに展開できる ・クラス替えを通し、児童の成長が期待できる ・人間関係の固定化を回避できる
適正規模でない	<ul style="list-style-type: none"> ・手の掛かる子も多く、学校裁量で少人数指導を行っている ・2 学級の場合、1 担任が不在の時や、経験の浅い教師へのフォローに苦勞する ・単学級編成の学年の場合、担任 1 人に負担がかかり、その分児童への配慮が手薄になってしまう
どちらとも言えない	<ul style="list-style-type: none"> ・単学級の学年があるが、児童の成長の点から、複数学級が望ましい 2 件 ・1 学年 2 学級は、相互協力が得られやすいが、学年が上がるにつれ、人間関係が複雑になり、クラス替えなどで選択肢が多い方が調整しやすい ・1～6 年生までクラス替えがなく、人間関係の難しさがあるが、反面、まとまりや地域とのつながりは強い

	中 学 校
適正規模である	<ul style="list-style-type: none"> ・学年すべての学級を一人の教師で担当可能 (1 学年 4 学級) ・クラス替えにより人間関係に変化を持たすことができる 2 件 ・生徒間の切磋琢磨ができる 3～4 学級が望ましい
適正規模でない	<ul style="list-style-type: none"> ・学年 4～5 学級が妥当。団体として行動しやすく、教師も生徒の顔を覚えられる規模である ・各学年 2 学級は、教師の目が届きやすいが、生徒の競争心、向上心が生まれにくい。進級時のクラス替えにも限界がある

※中学校については、どちらとも言えないと回答した学校は無し

②教育環境

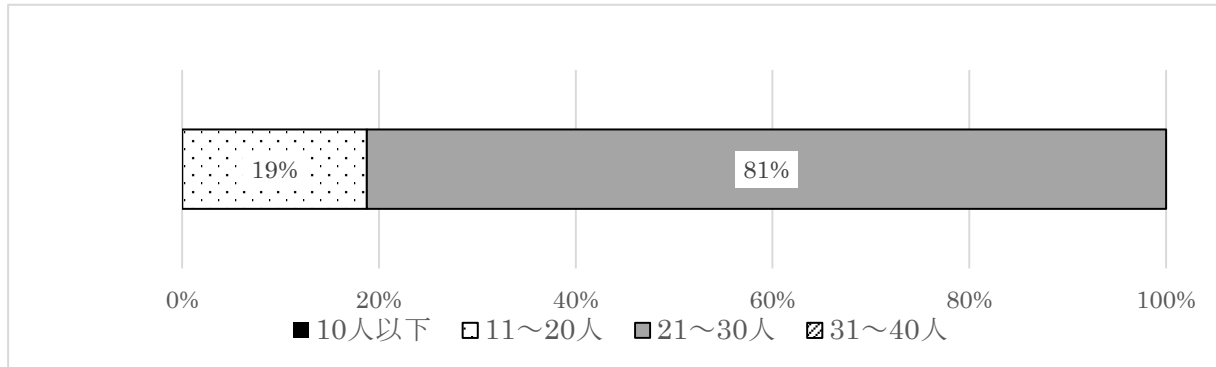
	小 学 校
適正規模である	<ul style="list-style-type: none"> すべての学年が3学級のため、設備が例年どおり使える。また、校務分掌など役割を分担でき、教師1人の負担が少ない
適正規模でない	<ul style="list-style-type: none"> 学級数が多く(3~4学級)、体育館やプールなどの施設を使用する授業時間の割り振りに苦労している 課題のある児童が増え、丁寧な指導をすべく、職員数をできるだけ確保したい 1学年単学級の場合、複数の教師で役割分担できず、負担が大きい 2件 1学年単学級の場合、担任は力量のある教師にしか任せられない
どちらとも言えない	<p>学級数が多い場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 少人数編成を行った場合、空き教室が少なく様々な用途に使えない 2件 <p>学級数が少ない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 空き教室が増え、維持管理に負担がかかる 1学年3学級以上あると、教師間で相談や協力ができ、児童や保護者への対応も十分にできる 3件 教師の負担を考えると、複数学級編成が望ましい 小規模ゆえ、こども園や学童などが校舎に入ることができているが、それが適正かどうか判断しかねる

中 学 校	
適 正 規 模 で あ る	<ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに棟と階で分けられる（1学年4学級） ・教師間の協力体制や役割分担を組織的に行うことができる（1学年3学級）
適 正 規 模 で な い	<ul style="list-style-type: none"> ・教員数が不足している。特別教室、体育館の利用が重なることがあり、調整等が必要となることがある。タイムリーな指導や効果的な指導がしにくい時がある（1学年5～6学級） ・空き教室がなく、体育時の更衣等も窮屈である（1学年7学級） ・学級数が少ない分、他学年を指導する教師がほとんどで一人にかかる負担は大きい（1学年2学級）

※中学校については、どちらとも言えないと回答した学校は無し

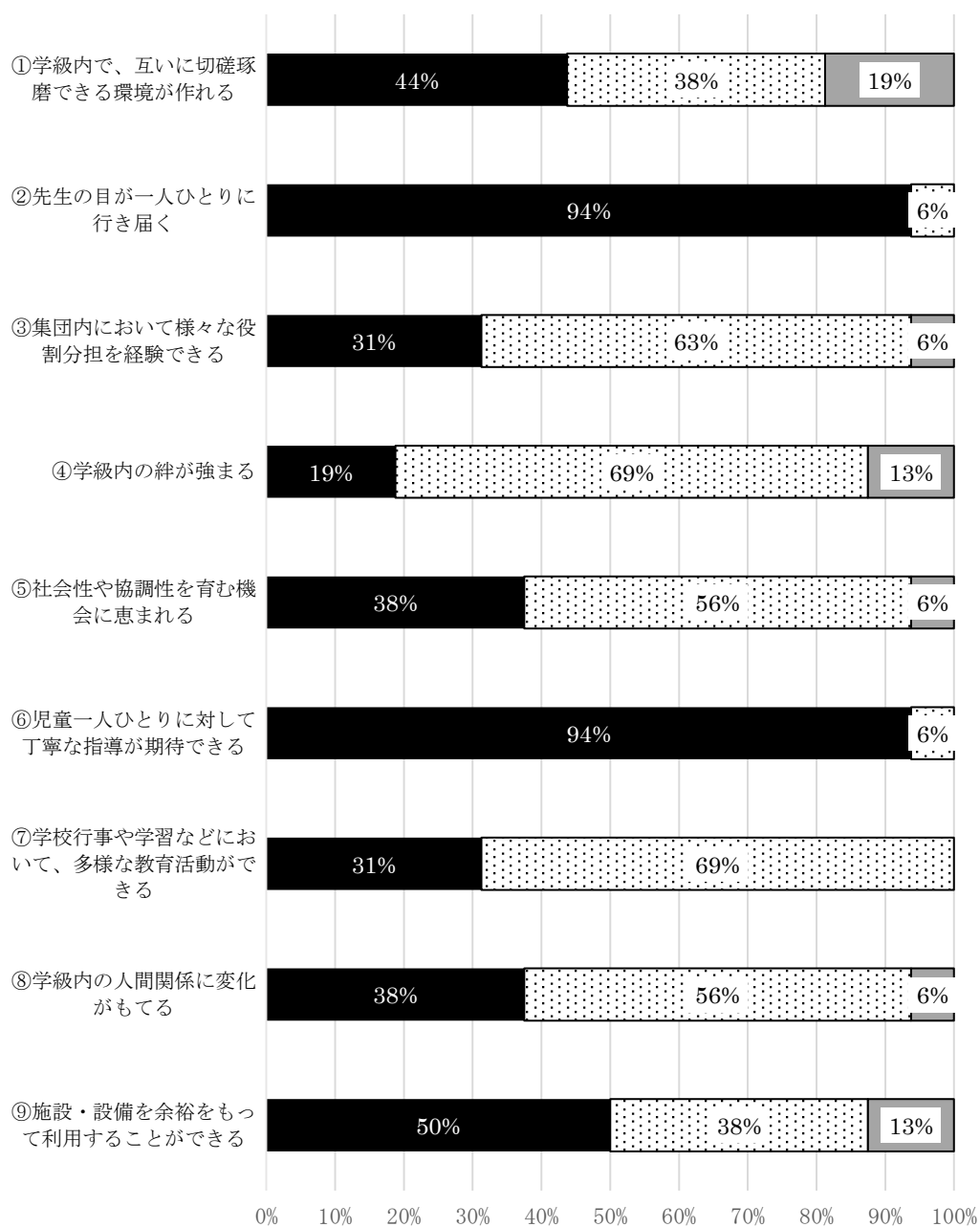
小学校の望ましいと思う児童数、学級数について

問7 1学級あたりの児童数は何人程度が望ましいと思うか



望ましい1学級あたりの児童数について、「21人～30人」と回答した学校が最も多く16校中13校であった。「11人～20人」と回答した学校が3校あり、「10人以下」「31人～40人」と回答した学校はなかった。

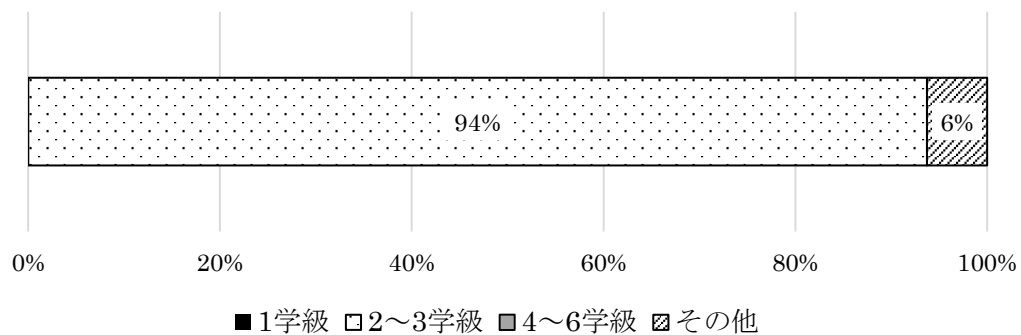
問 8 小学校 1 学級の望ましい児童数を選んだ理由としてどのように考えているか



■ 1. 重視する □ 2. やや重視する ▣ 3. あまり重視しない ▤ 4. 重視しない

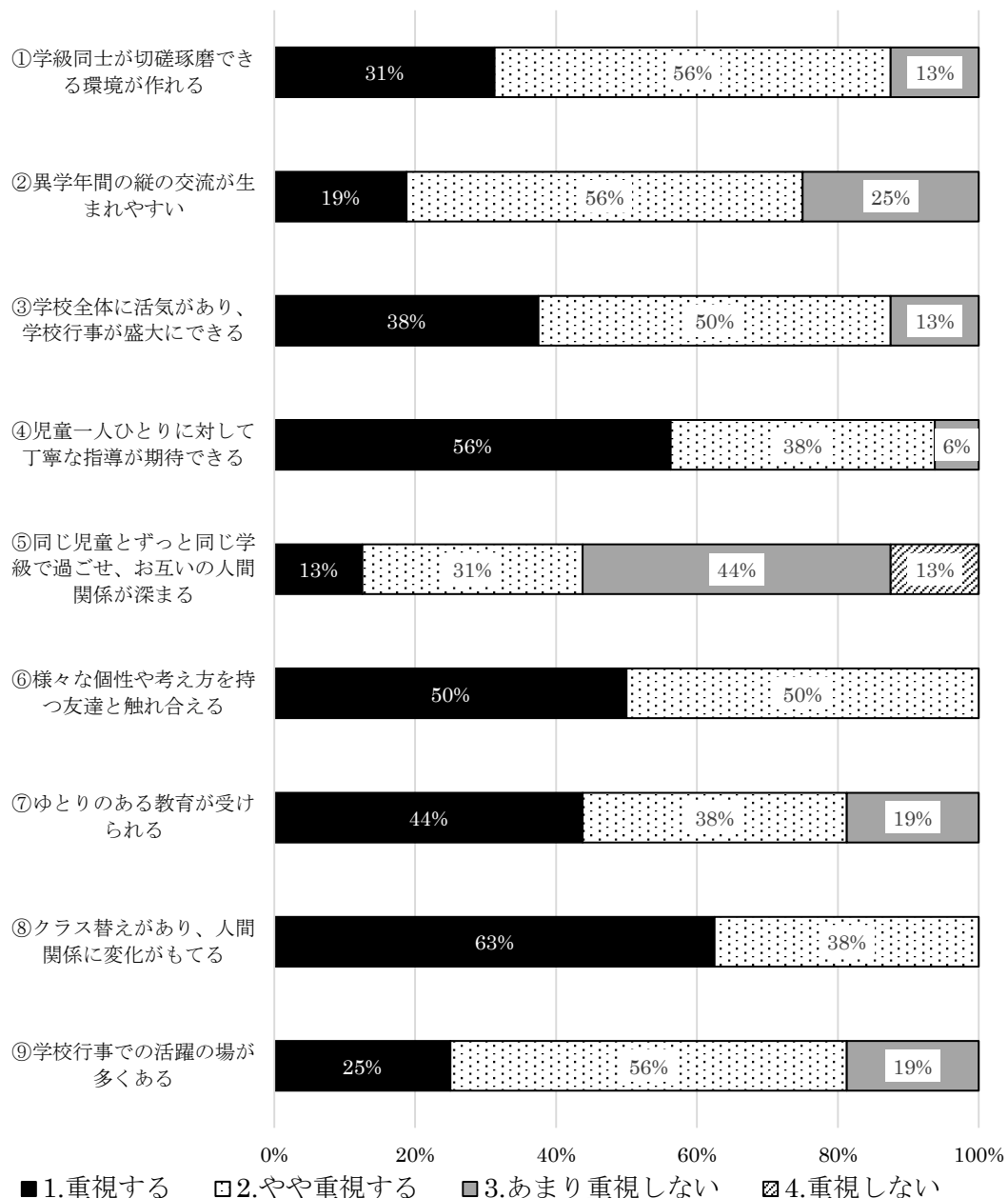
「②先生が目が一人ひとりに行き届く」や「⑥児童一人ひとりに対して丁寧な指導が期待できる」の項目が、「重視する」94%であり、1学級あたりの児童数については、一人ひとりへの丁寧な指導を重視する割合が高いことが伺える。その他の理由として「丁寧な保護者対応ができること」を重視する回答が1件あった。

問 9 1 学年あたりの学級数は、どの程度が望ましいか



望ましい1学年あたりの学級数について、「2~3学級」と回答した学校が最も多く、16校中15校であった。その他「3~4学級」という回答が1校あった。

問 10 小学校 1 学年あたりの望ましい学級数を選んだ理由としてどのよう に考えているか

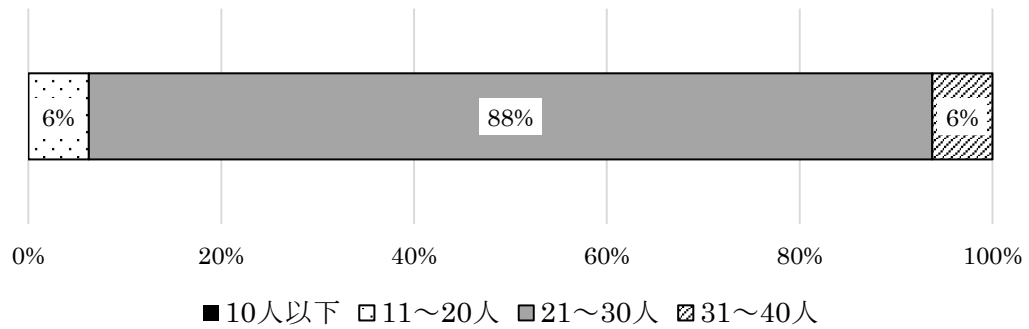


「⑥様々な個性や考え方を持つ友達と触れ合える」や「⑧クラス替えがあり、人間関係に変化がもてる」の項目が、「重視する」「やや重視する」と合わせて 100% あり、クラス替えによる人間関係の変化を重視する割合が高いことが伺える。

「④児童一人ひとりに対して丁寧な指導が期待できる」も重視する傾向が伺える。その他の理由として「学年の教師間の協力体制が組織できる」を重視する回答が 1 件あった。

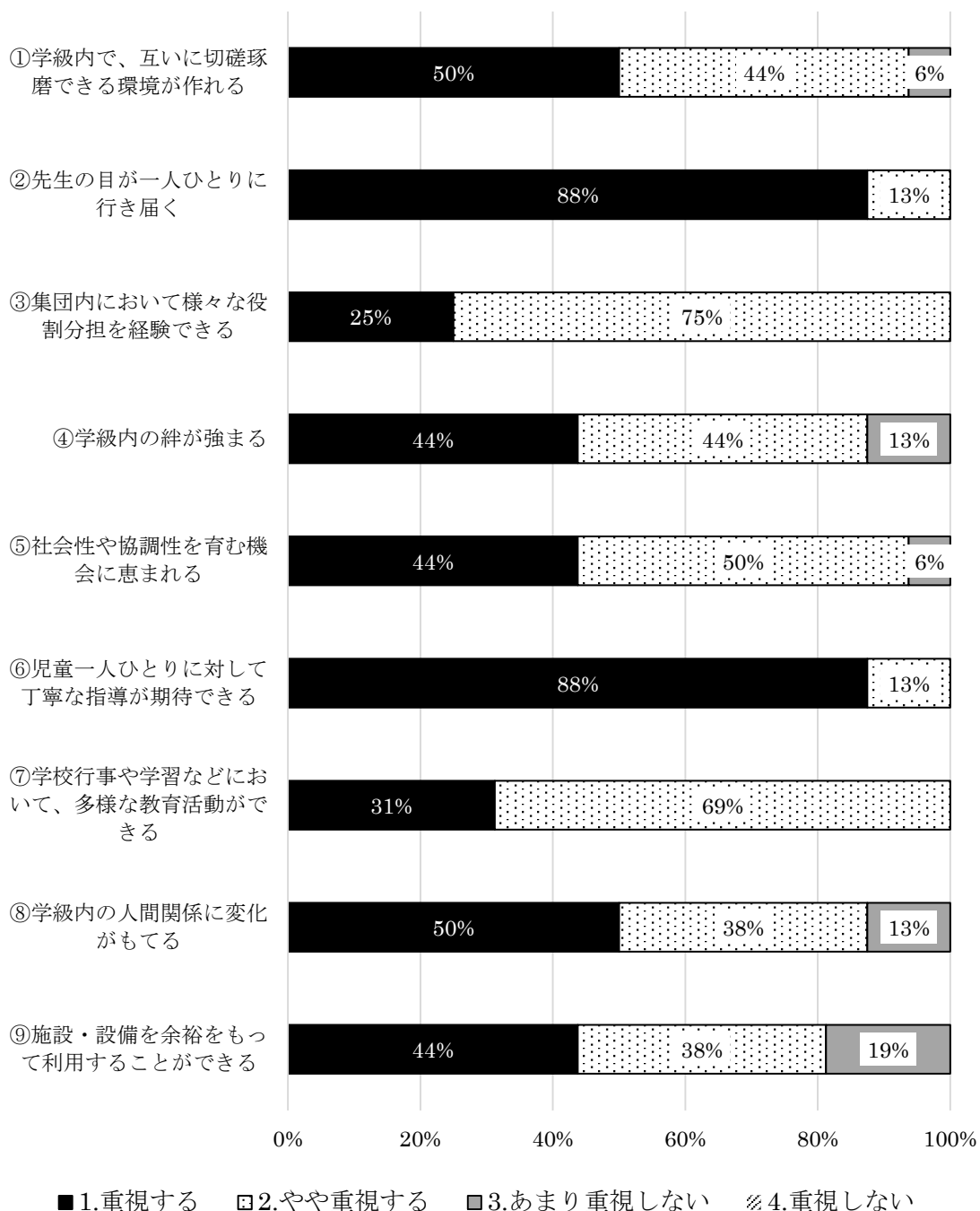
中学校の望ましいと思う生徒数、学級数について

問 11 1 学級あたりの生徒数は何人程度が望ましいと思うか



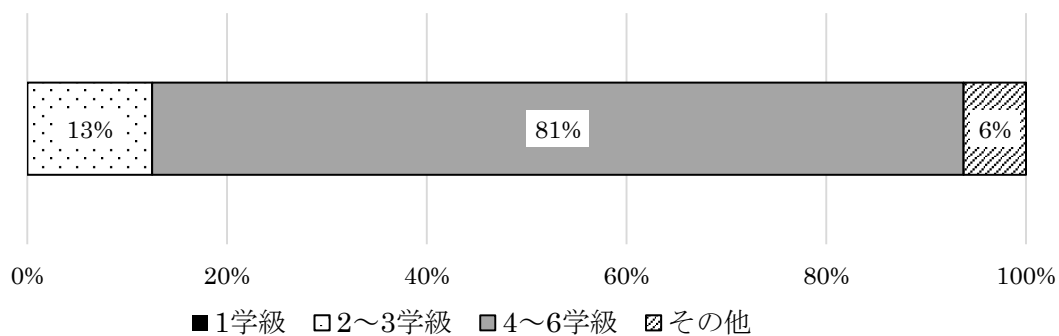
望ましい1学級あたりの生徒数について、「21人~30人」と回答した学校が最も多く、16校中14校であった。「11人~20人」「31人~40人」と回答した学校が1校ずつあり、「10人以下」と回答した学校はなかった。

問 12 中学校 1 学級あたりの望ましい生徒数を選んだ理由としてどのよう
に考えているか



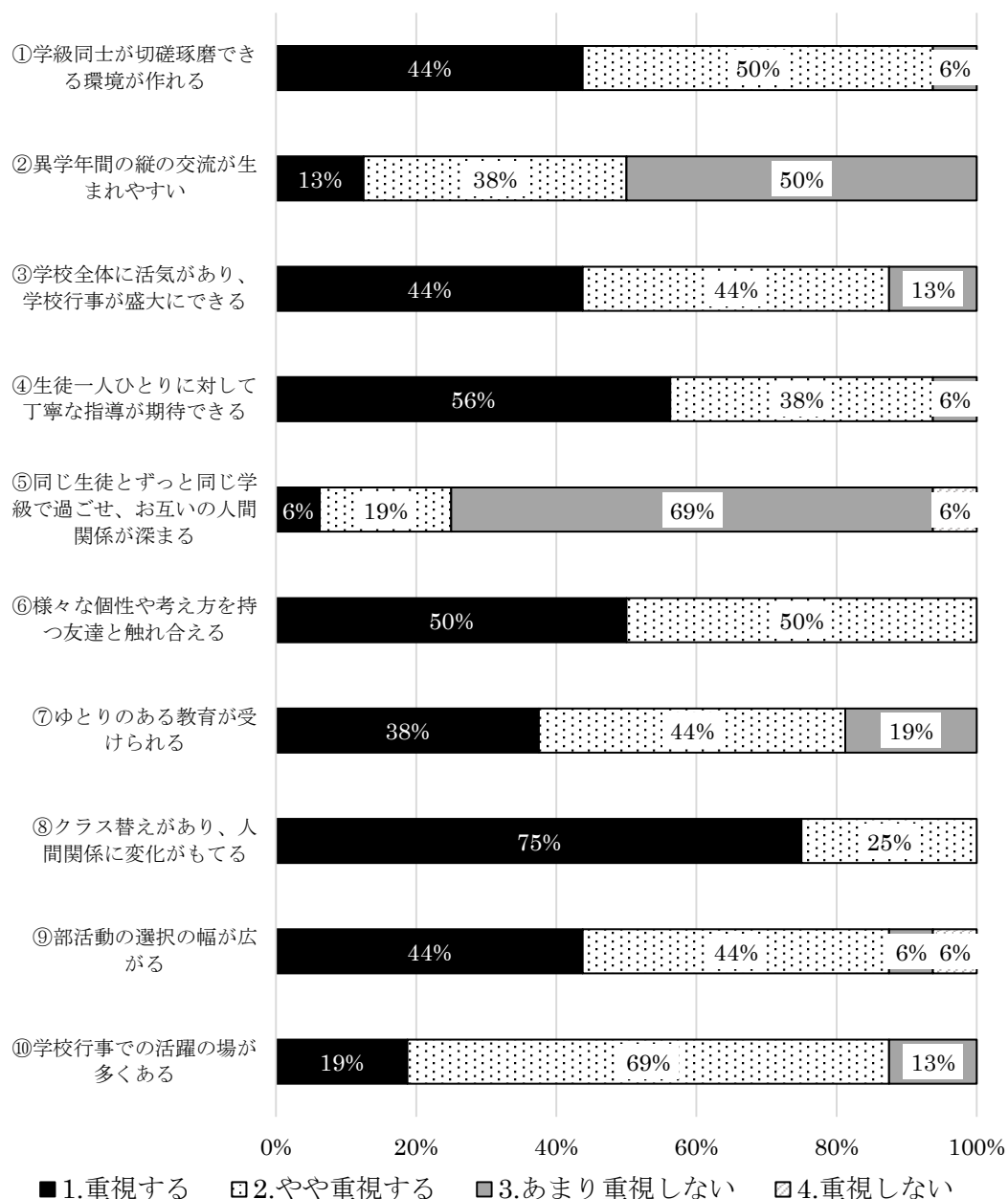
「②先生が目が一人ひとりに行き届く」「⑥児童一人ひとりに対して丁寧な指導が期待できる」の項目が、「重視する」88%であり、一人ひとりへの丁寧な指導を重視する割合が高いことが伺える。その他の理由として「丁寧な保護者対応ができる」を重視する回答が1件あった。

問 13 1 学年あたりの学級数は、どの程度が望ましいか



望ましい1学年あたりの学級数について、「4~6 学級」と回答した学校が最も多く、16 校中 13 校であった。「2~3 学級」と回答した学校が 2 校、その他「3~4 学級」と回答した学校が 1 校あった。「1 学級」と回答した学校はなかった。

問 14 中学校 1 学年あたりの望ましい学級数を選んだ理由としてどのように考えているか



「⑥様々な個性や考え方を持つ友達と触れ合える」「⑧クラス替えがあり、人間関係に変化がもてる」の項目が、「重視する」「やや重視する」と合わせて 100%であり、クラス替えによる人間関係の変化を重視する割合が高いことが伺える。

「④児童一人ひとりに対して丁寧な指導が期待できる」も重視する傾向が伺える。その他の理由として「学年の教師間の協力体制が組織できる」を重視する回答が 1 件あった。

通学距離と時間について

問 15 自校へ最も遠い場所から通う児童生徒のおよその通学距離及び通学時間

小学校	通学距離 (km)	通学時間 (分)
郡山南小学校	2	40
筒井小学校	1.5	30
矢田小学校	2.5	50
平和小学校	1.7	40
治道小学校	2.2	40
昭和小学校	2.5	40
片桐小学校	2.5	35
郡山北小学校	2	30
片桐西小学校	1	20
郡山西小学校	3	60
矢田南小学校	1.4	25
平均	2	37

中学校	通学距離 (km)	通学時間 (分)
郡山中学校	2.2	20
郡山南中学校	4	20
郡山西中学校	4	20
郡山東中学校	3.5	25
片桐中学校	2	15
平均	3.14	20

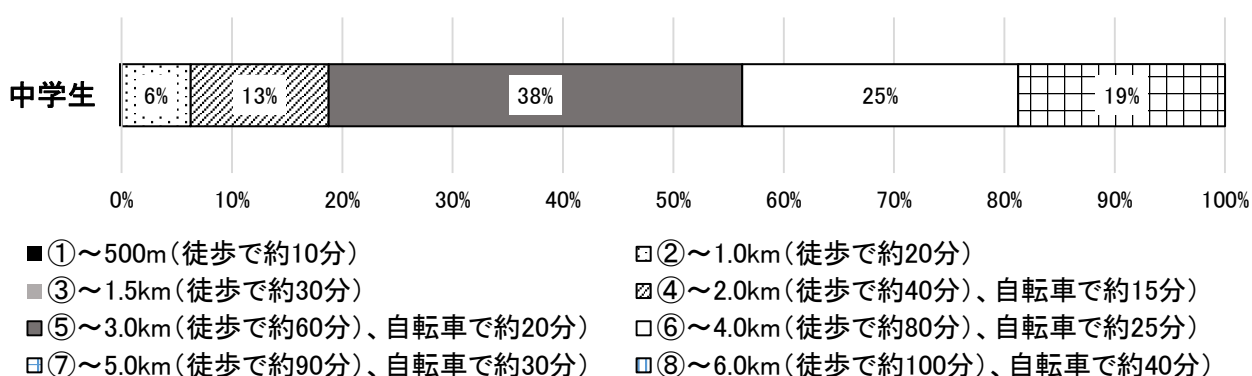
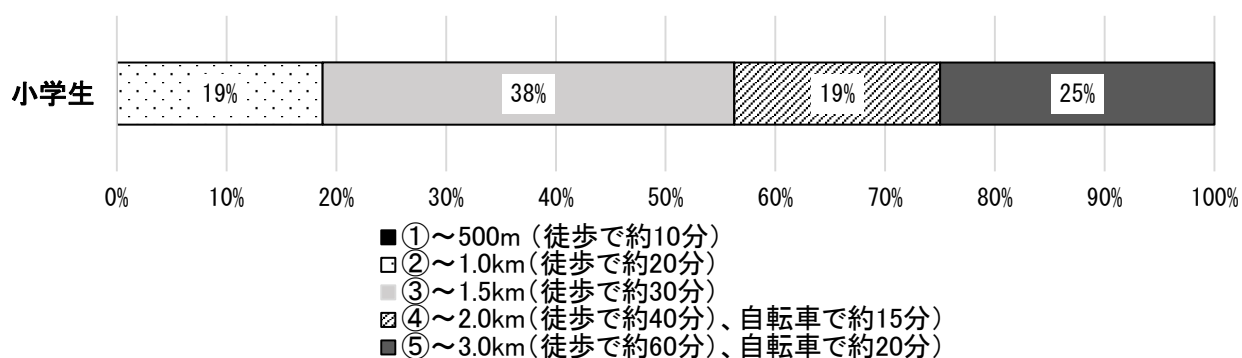
最も遠い場所から通う児童生徒のいる学校は、小学校は郡山西小学校で、通学距離は3km 通学時間は60分であった。中学校は郡山東中学校で、通学距離は3.5km 通学時間は25分であった。中学校は自転車通学が可能のため、小学校と比べ、通学距離は長くなっているが、通学時間は短くなっている。

問 16 自宅へ徒歩及び自転車で通う生徒の割合（中学校のみ回答）

	郡山中学校	郡山東中学校	郡山西中学校	片桐中学校	郡山南中学校
徒歩(%)	65	68	3	93	59
自転車(%)	35	32	97	7	41

片桐中学校は約9割、郡山中学校・郡山東中学校・郡山南中学校の3校は約6～7割の生徒が徒歩で通学しているのに対し、郡山西中学校はほとんどが自転車通学であった。

問 17 小学生と中学生の通学距離（通学時間）は、どの程度までならよいか

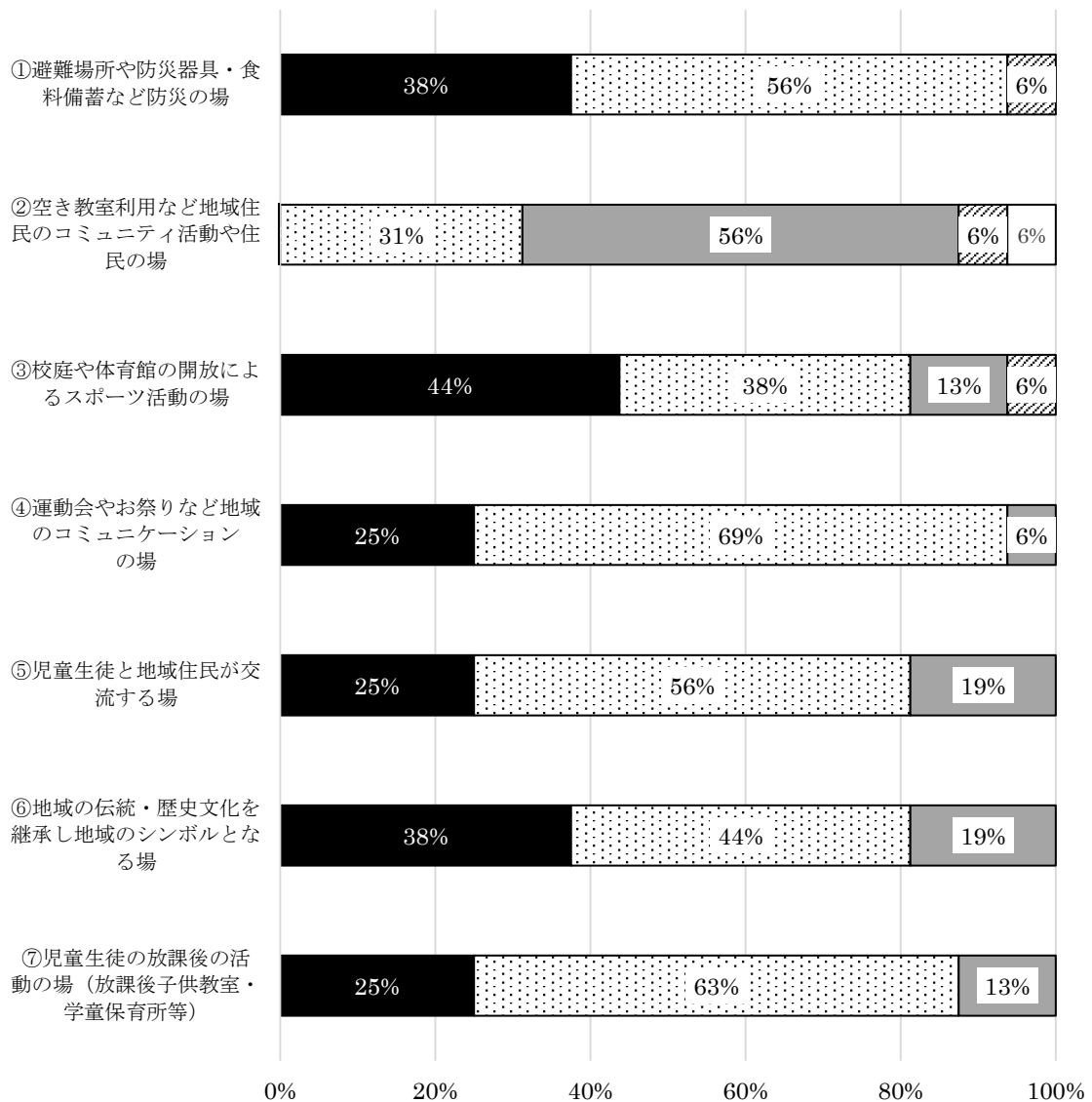


小学生は⑤～3.0kmまでが16校中4校、④～2.0kmまでが3校、③～1.5kmまでが6校、②～1.0kmまでが3校であり、徒歩で通学することが基本であることから、3kmより遠い距離での回答はなかった。

中学生は⑦～5.0kmまでが16校中3校、⑥～4.0kmまでが4校、⑤～3.0kmまでが6校、④～2.0kmまでが2校、②～1.0kmまでが1校であった。自転車通学が可能であるため、5kmまでならよいの回答であった。

地域と学校の関わりについて

問 18 学校は、地域においてどのような役割を果たしていると思うか

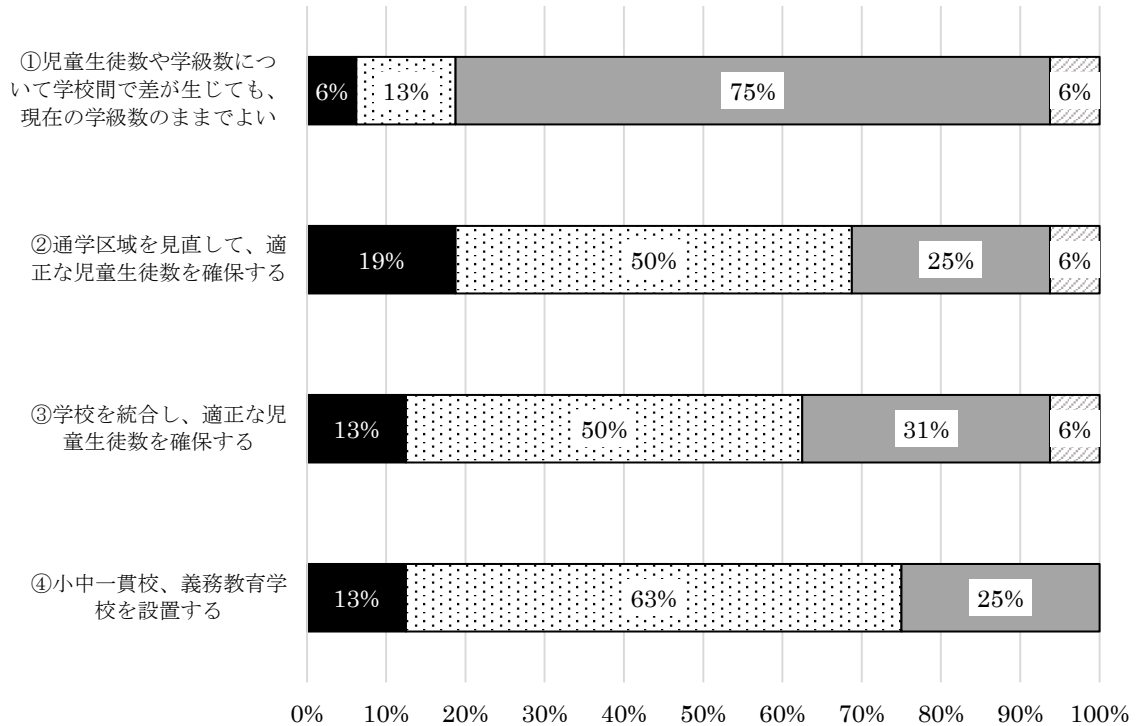


■ 1. 1. と思う □ 2. 2. やや と思う □ 3. 3. あまり と思う ない ▣ 4. 4. そう 思う ない □ 5. 5. 未 回答

「②空き教室利用など地域住民のコミュニティ活動や住民の場」以外の項目は、「1. 1. と思う」「2. 2. やや と思う」が 80%以上を占めており、学校が地域において重要な役割を果たしていると認識している学校が多いことが伺える。その他の理由として「未来の地域の担い手を育成する場」としての役割を認識しているという回答が 1 件あった。

教育環境の課題について

問 19 今後さらに児童生徒数が少なくなることが想定されるが、これからの大和郡山市における活力ある学校づくりに向けて、どのように検討を進めていくことがよいと思うか



■ 1. そう思う □ 2. ややそう思う ■ 3. あまりそう思わない □ 4. そう思わない

「①児童生徒数や学級数について学校間で差が生じても、現在の学級数のままでよい」については、「あまりそう思わない」「そう思わない」で約80%を占めており、検討を進めるべきとの認識が大半である。さらに、②～④の検討方法に関する設問についても、60～70%の割合で、「そう思う」「ややそう思う」との回答であり、何らかの方法により検討を進める必要があると認識していることが伺える。

問 20 大和郡山市の学校の適正規模・適正配置についての意見

適正規模・配置について

- ・児童生徒の向上心や社会性の育成等、また教職員の負担を考えると、一定の規模は必要 3件
- ・小中学校とも一定の学級数（小学校 2～3 学級、中学校 4～6 学級）が維持できるような規模が必要
- ・小中一貫校の検討が必要 2件
- ・学校規模・配置の適正化は今後必要と考える。今回、各学校区において、自分たちの街・地域での学校の役割等について、抜本的に考えていく機会であってほしい

校区の変更について

- ・校区割の変更による児童生徒数の見直しは必要
- ・ゼロベースで校区の見直しを考えてほしい。また、通学の安全を確保するため、スクールバス等を確保してほしい
- ・小学校区と中学校区が合致しない校区の見直しを行い、地域的な教育の一貫性を維持することが大切

その他

- ・児童生徒数の減少に伴い、対策の方向性を協議していくことが大切
- ・その時の生徒数学級数に応じて適正な教育内容を工夫し選択していくのが学校の役目
- ・地域住民と十分話し合うことが大切。その中で学校教育の方向性を丁寧に説明すれば理解は得られると思う
- ・様々な意見がある中でも「適正」を追求することは大切
- ・きめ細やかに丁寧に対応できる環境で子どもたちが学べるように
- ・校舎の老朽化が激しいため、適正規模とともに改築を実施してもらいたい

問 21 大和郡山市の教育において、将来どのような児童生徒の育成を目指し、力を入れて行くべきかと思うか

地域に根差した教育・郷土を愛する児童生徒の育成

- ・郷土の歴史・文化・自然を愛する心を持つ児童生徒の育成 4件
- ・「仕事や子育てを地元で」と思えるような未来の大和郡山に夢を持てる教育
- ・未来の地域の担い手を育成できるような地域に根差した教育
- ・地域によって子どもの教育に差が出ず、また地域の特性にあった個性のある教育

自ら学ぶ力・社会性・協調性の育成

- ・自ら考え・学び・表現できる児童生徒の育成 3件
- ・社会性を身に付け、周囲と協調しながら、社会の一員としての役割を担っていきける児童生徒の育成
- ・コミュニケーション能力を高め、協調性のある生徒の育成

その他

- ・自尊感情や自己有用感を高める取り組みは、特に大切
- ・夢や希望を持って頑張り続けられる児童生徒の育成のため、学習面運動面ともに基礎的な力をしっかり身につけさせることが必要
- ・人間らしく優しい心温かい人間関係が築き上げられる児童生徒の育成
- ・グローバル化や高齢化社会に対応できる知識技能スキルの育成
- ・「教育大綱」の基本理念を基にした児童生徒の育成

学校の適正規模等に関する市民アンケート
調査結果

平成 31 年 3 月

大和郡山市学校規模適正化等審議会

目 次

1. 調査概要	1
(1) 調査の目的.....	1
(2) 調査期間	1
(3) 調査対象者.....	1
(4) 調査対象者の抽出方法.....	1
(5) 調査の方法.....	1
(6) 回収数.....	1
(7) 調査項目	1
(8) 本報告書を読む際の留意点	2
2. 調査結果	3
(1) 回答者の属性	3
(2) 小学校について	4
(3) 中学校について	14
(4) 地域と学校の関わりについて.....	24
(5) 自由意見	28
3. 資料編	34
(1) 案内文.....	34
(2) 調査票.....	35

1. 調査概要

(1) 調査の目的

近年、全国的な少子化の進展に伴う学校の小規模化の影響により、教育上・学校運営上の様々な課題が指摘されているなかで、本市においても、全国と同様に児童生徒数が減少傾向にある。

こうした問題を受け、大和郡山市学校規模適正化等審議会では、小中学校の児童生徒数及び学級数の規模、本市における学校の配置等について、様々な視点から検討を進めてきた。

本調査は、より多様な視点を取り入れるため、本市の児童生徒にとっての望ましい教育環境の確保と活力ある学校づくりに向けて、市民の意見を把握することを目的として実施した。

(2) 調査期間

平成 31 年 2 月 8 日～平成 31 年 2 月 25 日

(3) 調査対象者

大和郡山市在住の 20 歳以上の市民 2,500 名

(4) 調査対象者の抽出方法

住民基本台帳及び外国人登録票より無作為抽出

(5) 調査の方法

郵送による配布・回収

(6) 回収数・回収率

回収数：1,049 票

回収率：42.0%

(7) 調査項目

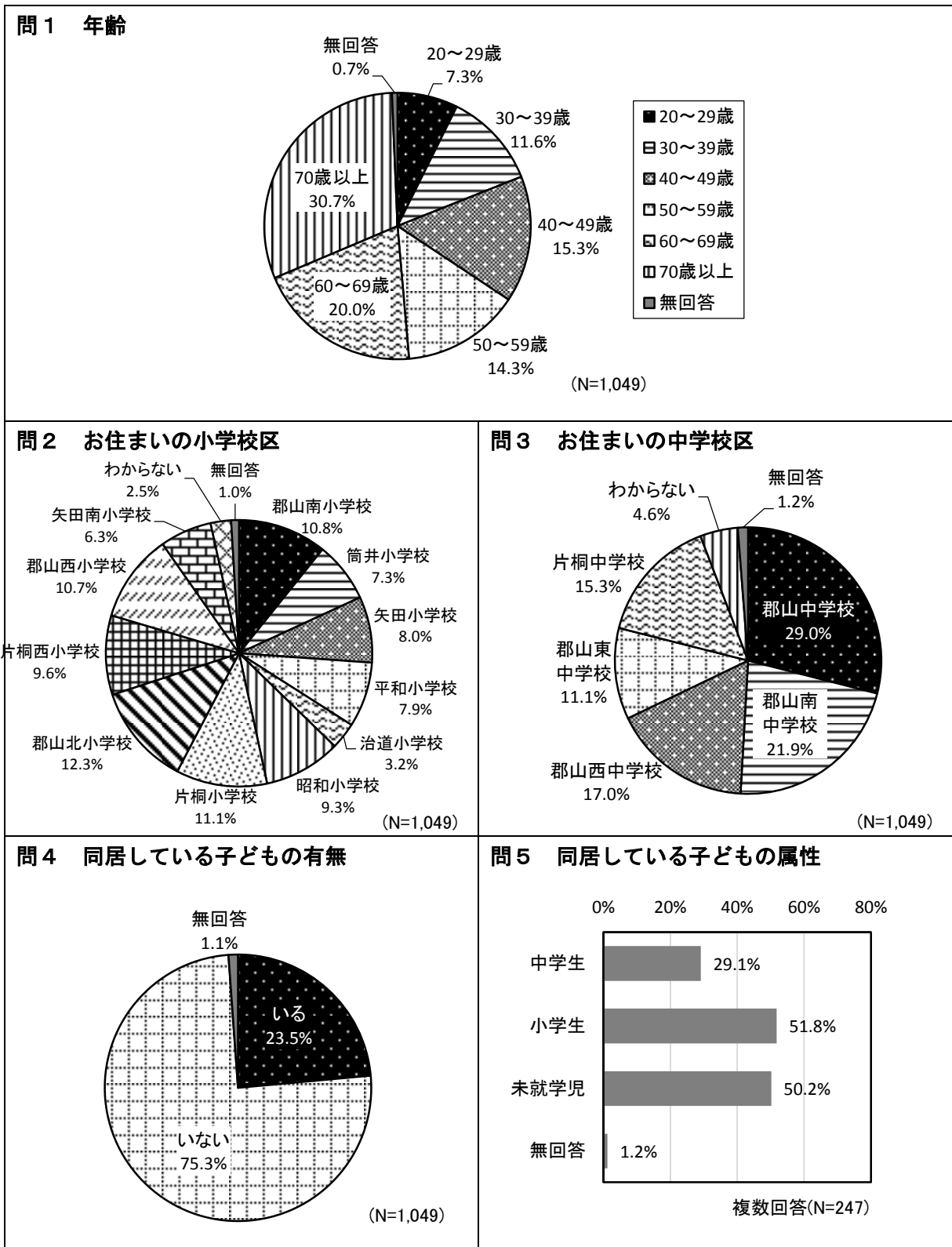
- ①回答者の属性（年齢、住まいの小中学校区及び中学校区、同居している子どもの有無等）
- ②小学校について
- ③中学校について
- ④地域と学校の関わりについて
- ⑤自由意見

(8) 本報告書を読む際の留意点

- ・ 図表中の「N」は、質問に対する回答者の総数を示しており、回答結果の割合（％）の分母である。
- ・ 回答結果の割合は、回答者の総数に対して、それぞれの選択肢の回答者の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものを示している。そのため、割合の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・ 2つ以上の選択肢を回答する設問（複数回答）の場合、回答結果の割合（％）は、回答者の総数に対して、各選択肢の回答者数の割合を示しているため、合計が100.0%以上となる。
- ・ 図表中において「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答内容の判別が困難なものである。
- ・ 図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。

2. 調査結果

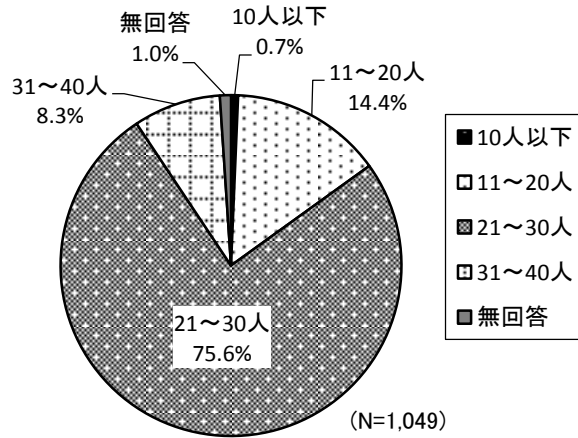
(1) 回答者の属性



(2) 小学校について

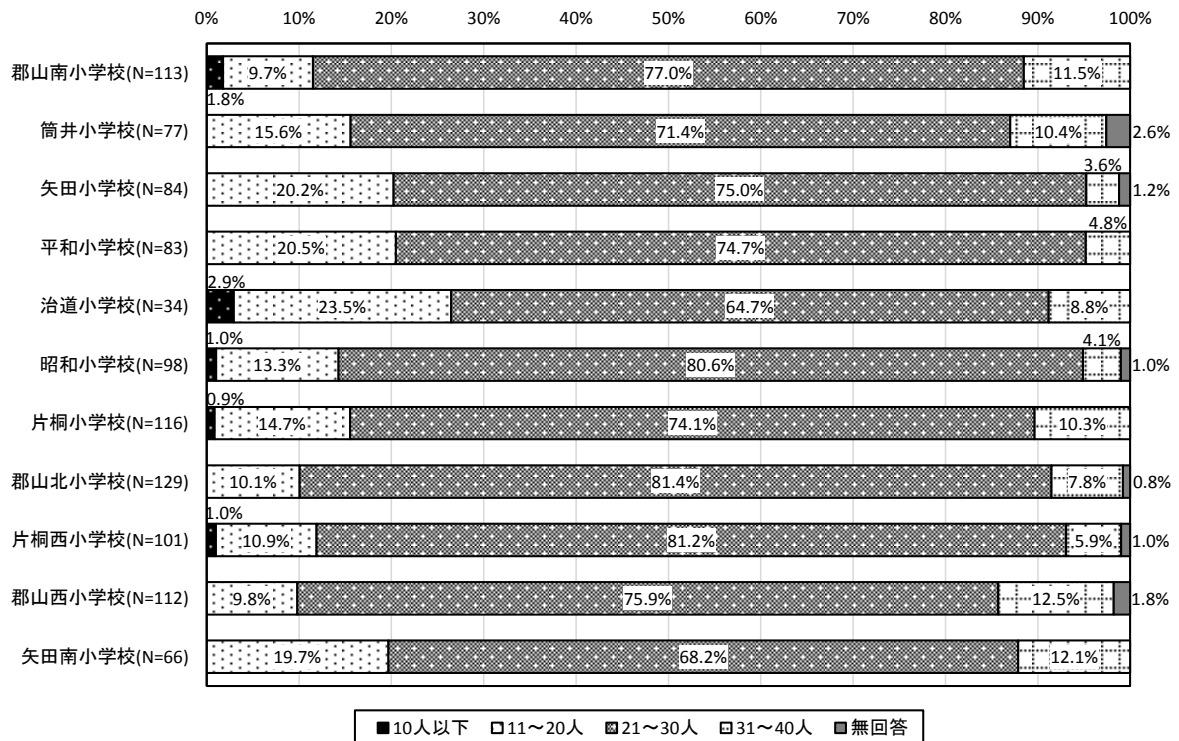
問6 小学校1学級あたりの児童数は何人程度が望ましいと思いますか。

【全体】

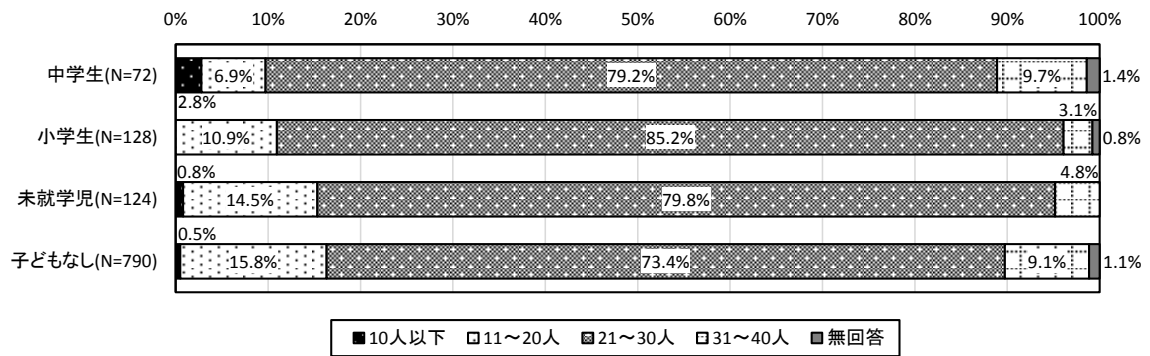


・小学校1学級あたりの望ましい児童数は、「21~30人」が75.6%と最も多く、次いで「11~20人」が14.4%、「31~40人」が8.3%であった。

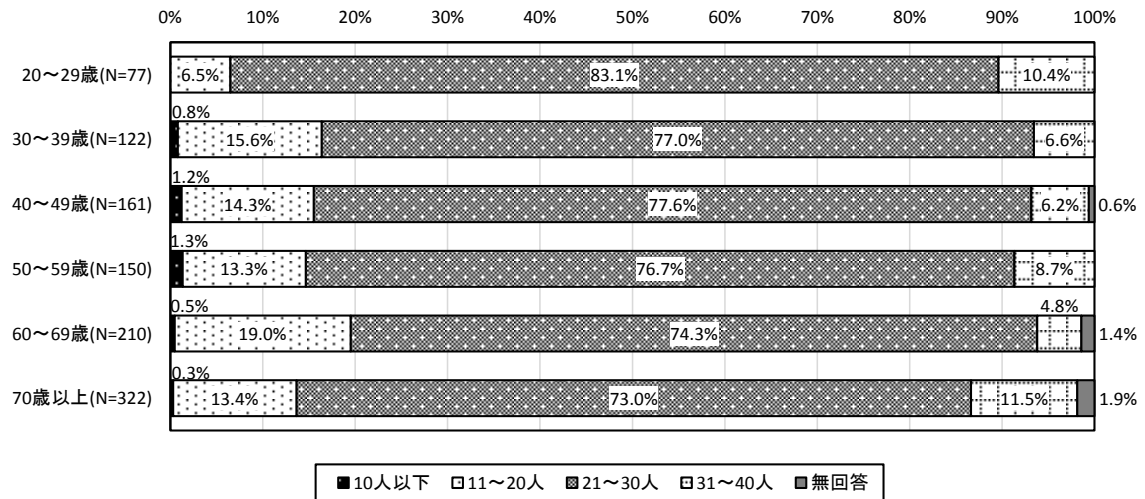
【小学校区別】



【同居している子どもの属性別】

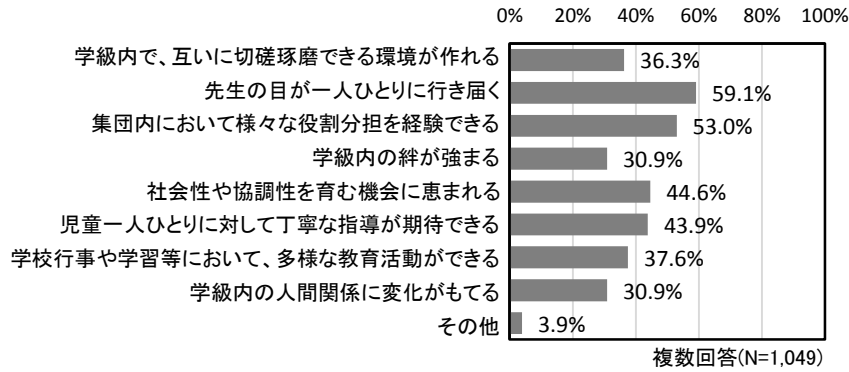


【年齢別】



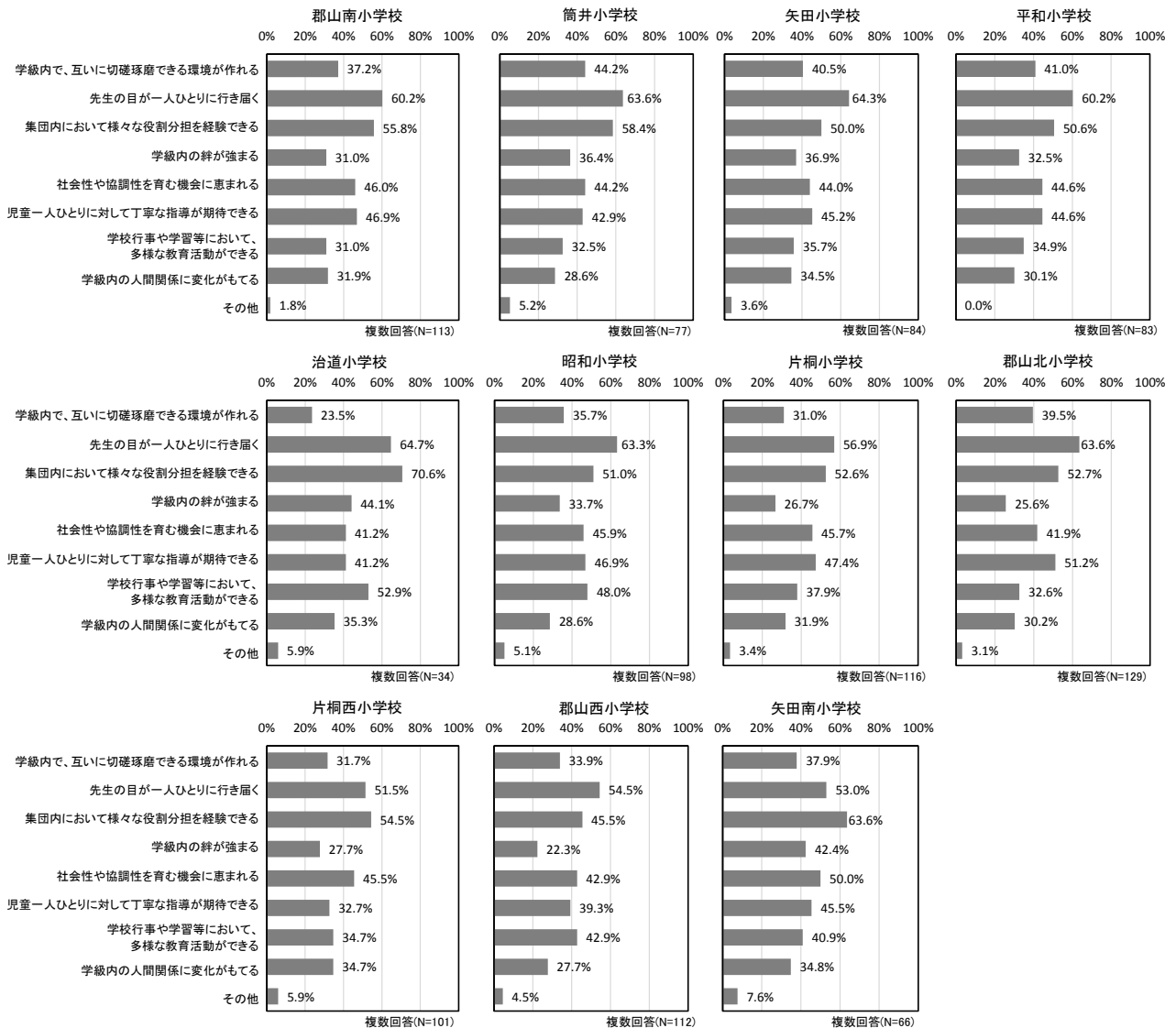
問7 問6の「小学校1学級あたりの望ましい児童数」を選んだ理由は何ですか。

【全体】

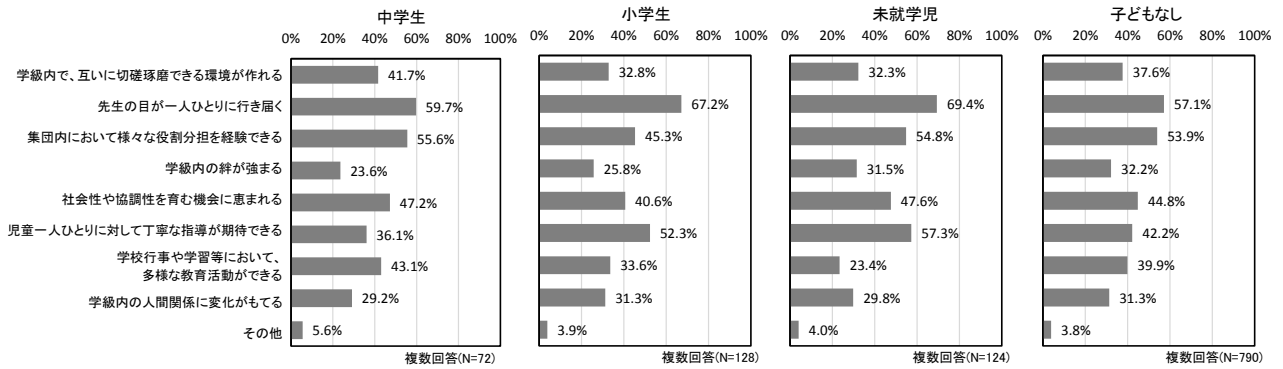


・「小学校1学級あたりの望ましい児童数」を選んだ理由は、「先生が目が一人ひとりに行き届く」が59.1%と最も多く、次いで「集団内において様々な役割分担を経験できる」が53.0%と多い。

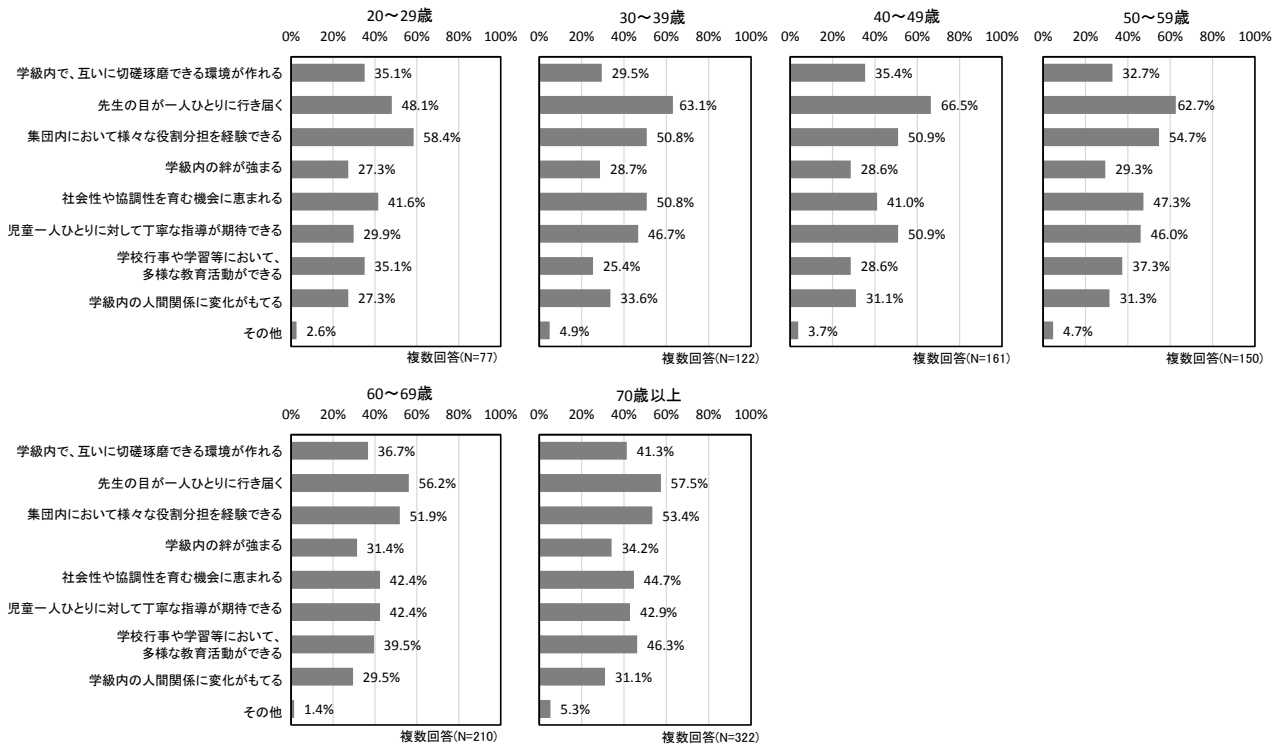
【小学校区別】



【同居している子どもの属性別】

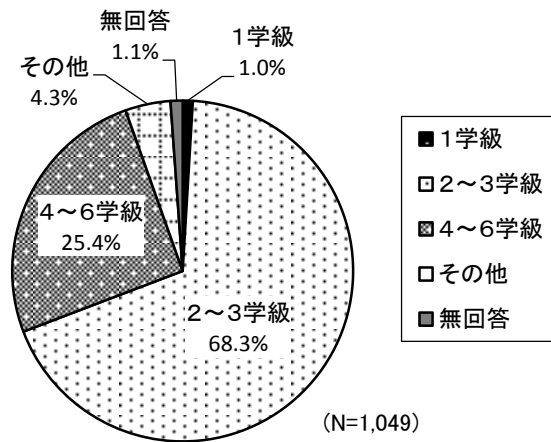


【年齢別】



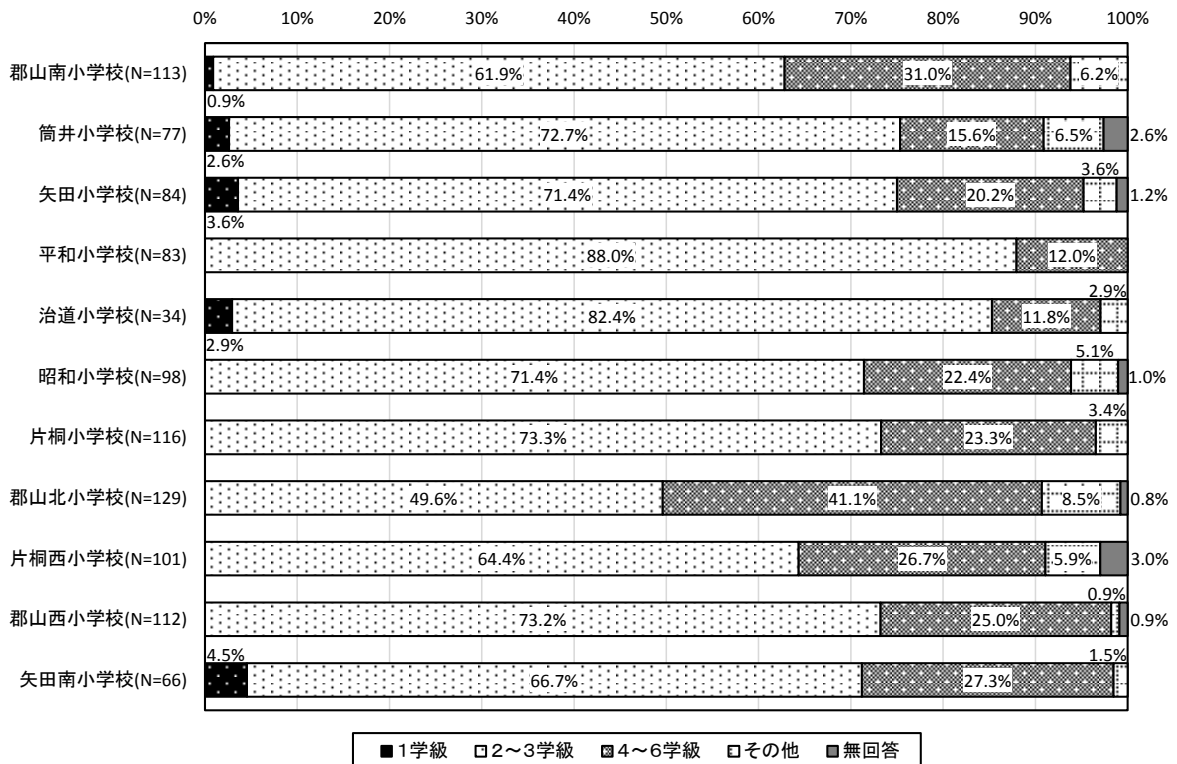
問8 小学校1学年あたりの学級数は、どの程度が望ましいと思いますか。

【全体】

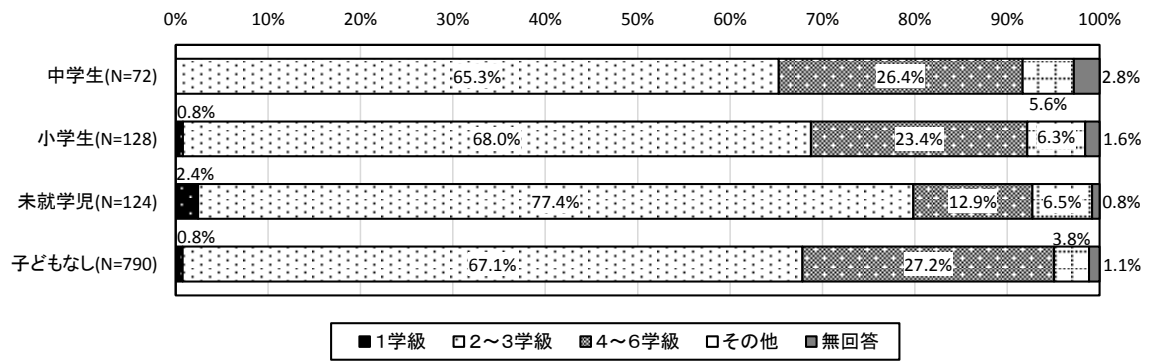


・小学校1学年あたりの望ましい学級数は、「2～3学級」が68.3%と最も多く、次いで「4～6学級」が25.4%と多い。また「1学級」は1.0%と少ない。

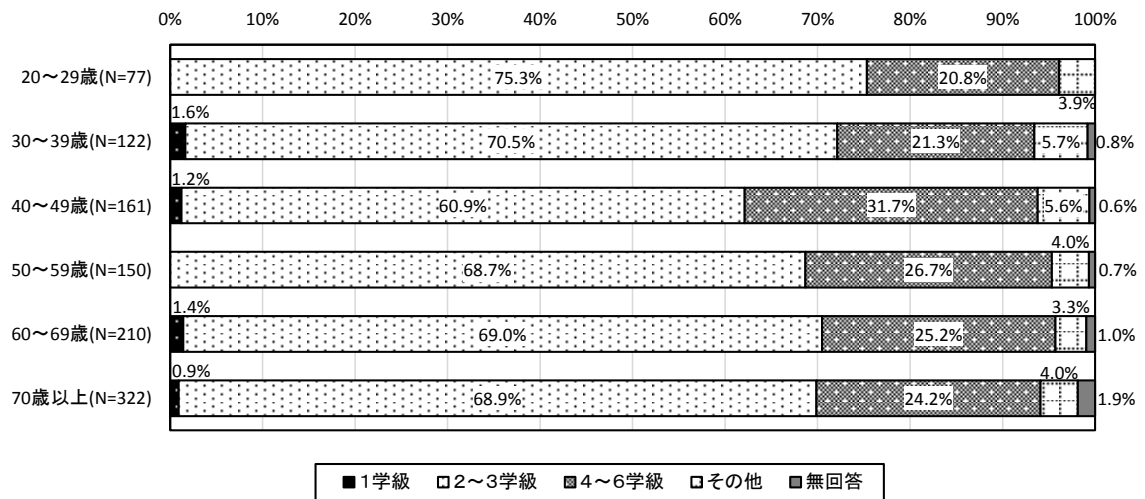
【小学校区別】



【同居している子どもの属性別】

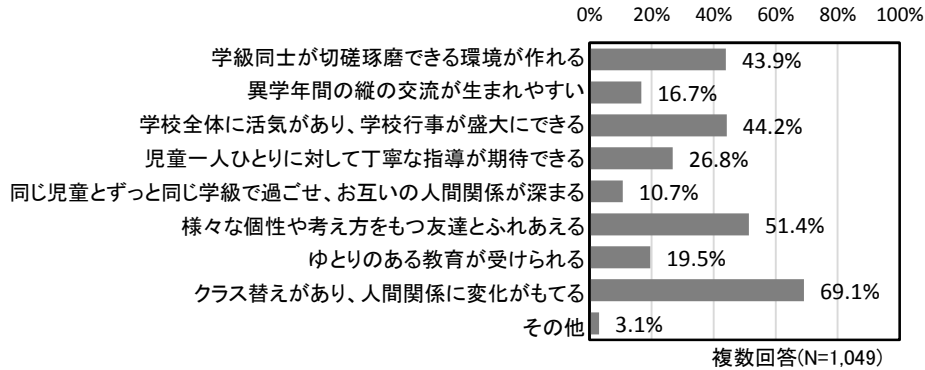


【年齢別】



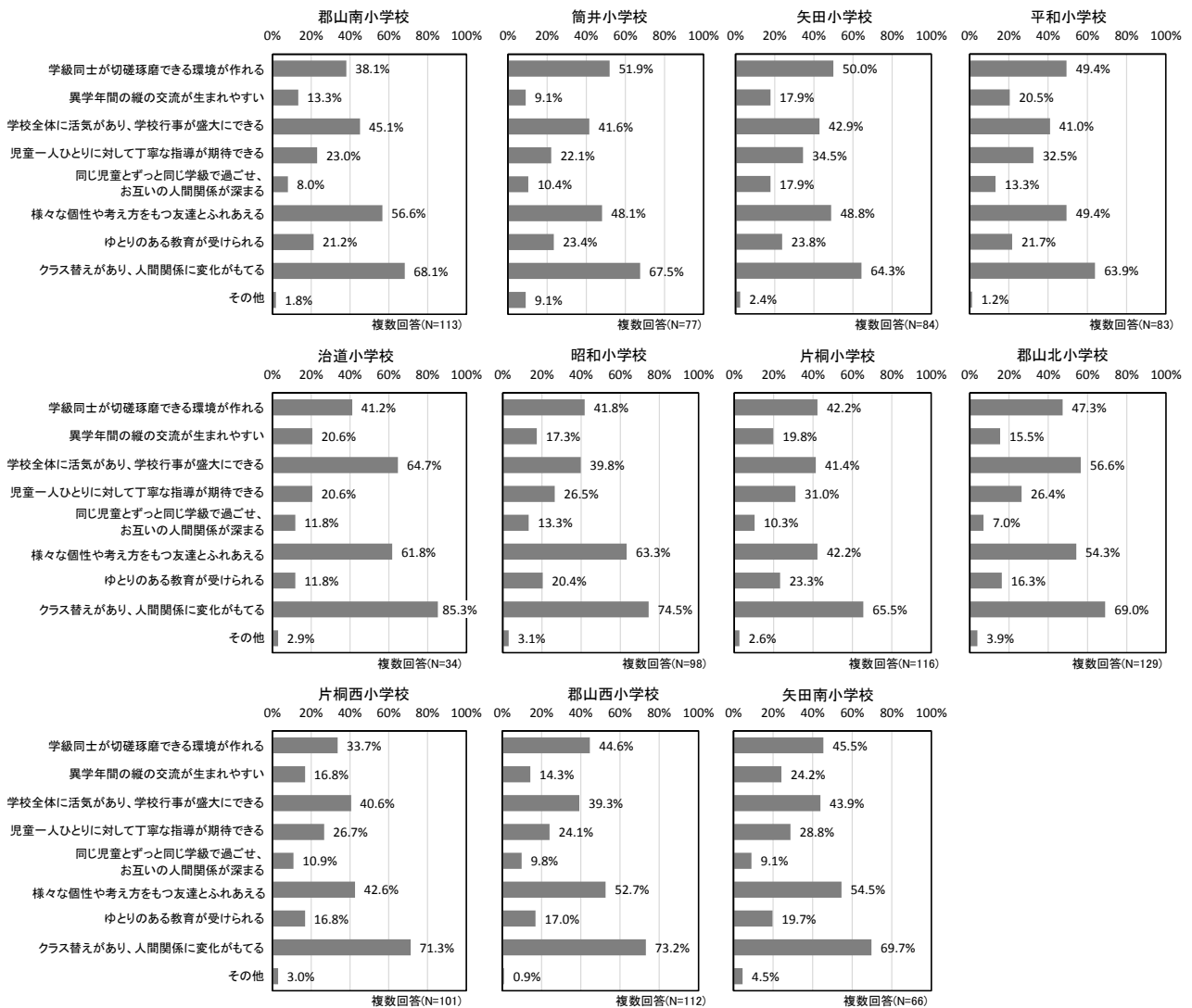
問9 問8の「小学校1学年あたりの望ましい学級数」を選んだ理由は何ですか。

【全体】

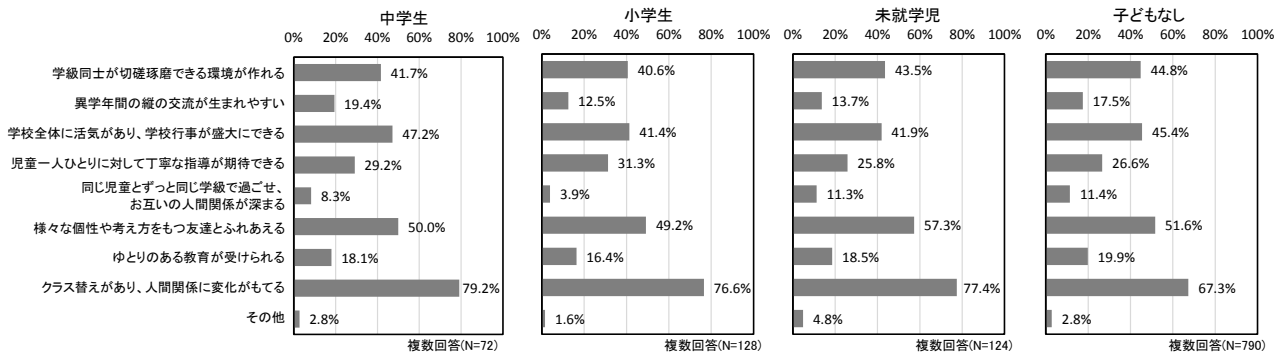


・「小学校1学年あたりの望ましい学級数」を選んだ理由は、「クラス替えがあり、人間関係に変化がもてる」が69.1%と最も多く、次いで「様々な個性や考え方をもち友達とふれあえる」が51.4%と多い。

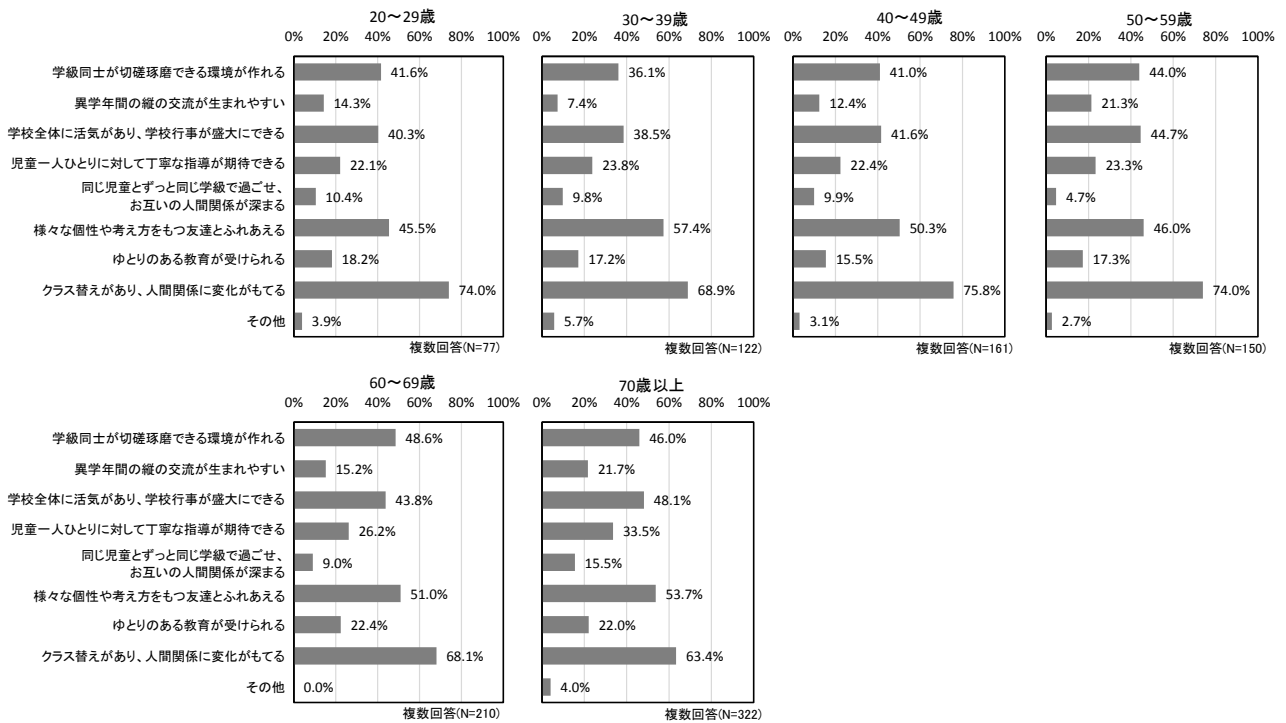
【小学校区別】



【同居している子どもの属性別】

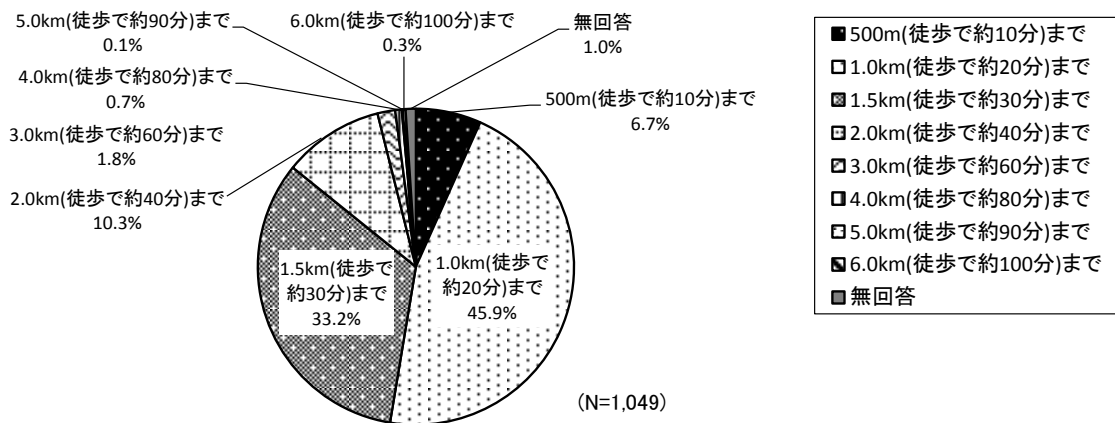


【年齢別】



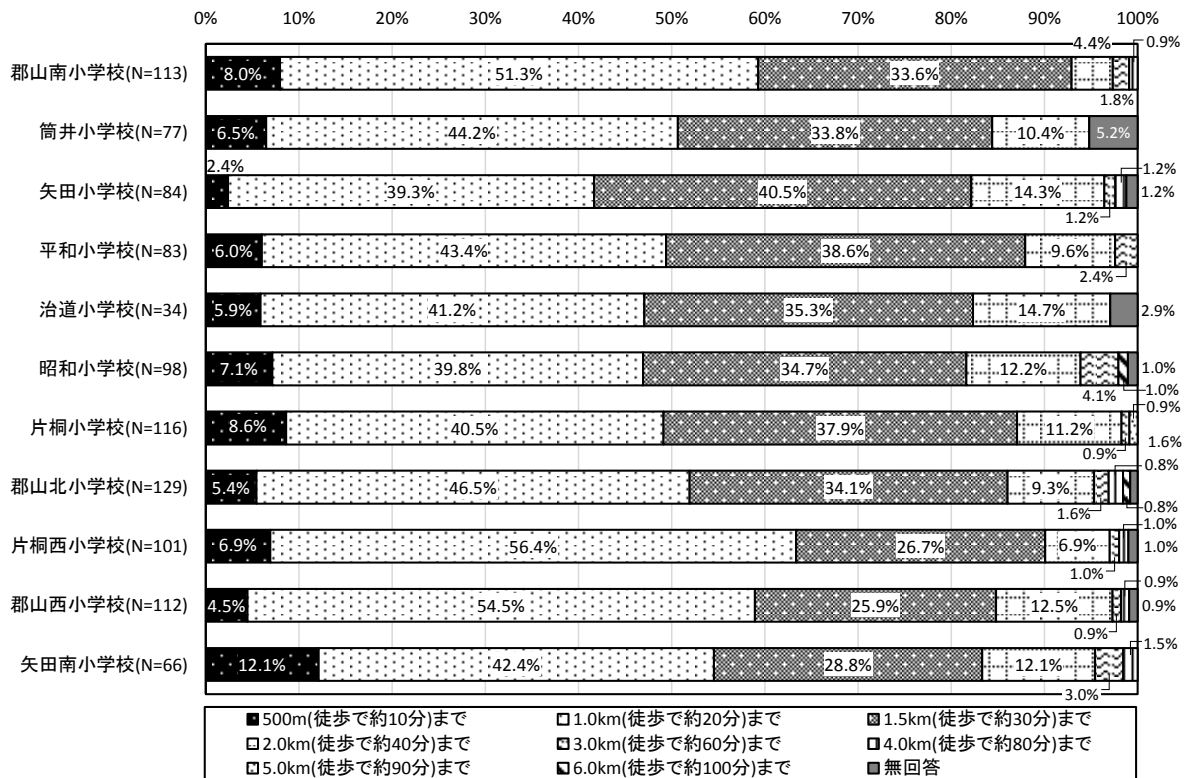
問 10 小学生の通学距離（通学時間）は、どの程度までならよいと思いますか。

【全体】

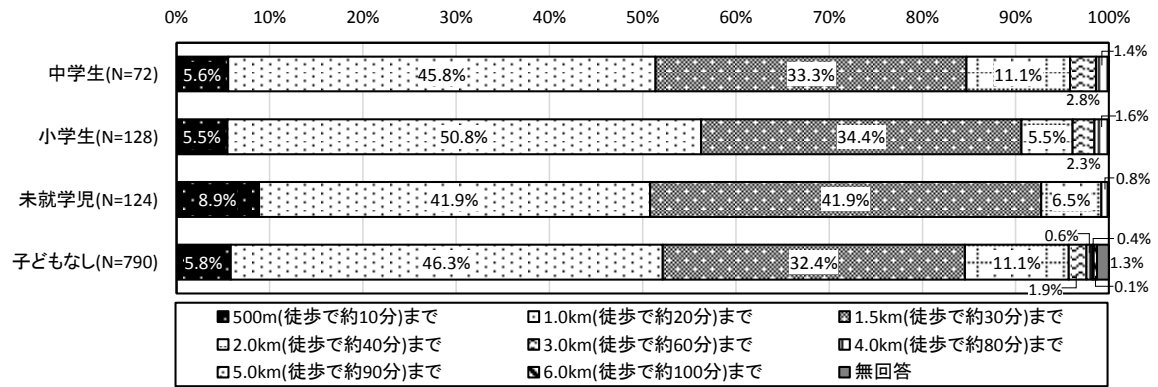


・小学生の望ましい通学距離（通学時間）は、「1.0km（徒歩で約20分）まで」が45.9%と最も多く、次いで「1.5km（徒歩で約30分）まで」が33.2%、「2.0km（徒歩で約40分）まで」が10.3%の順に多い。

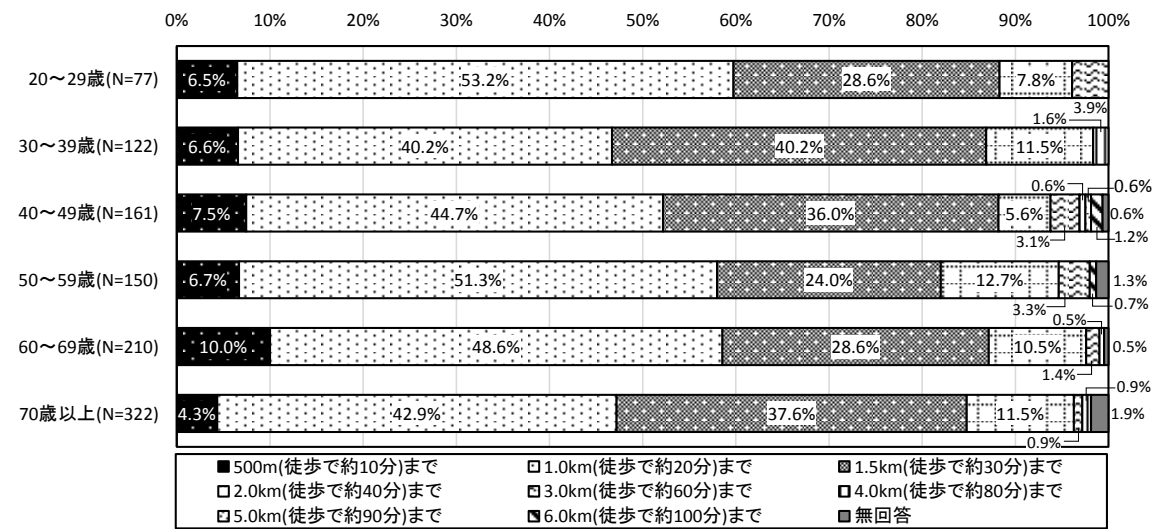
【小学校区別】



【同居している子どもの属性別】



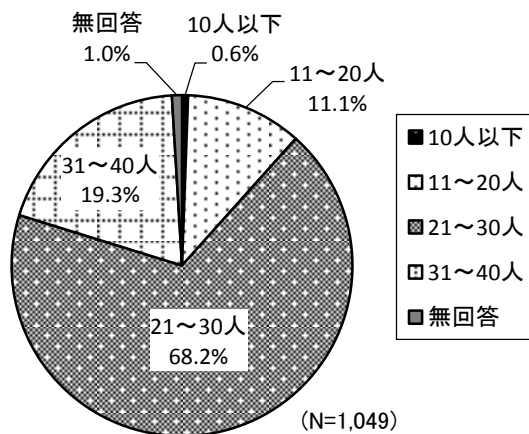
【年齢別】



(3) 中学校について

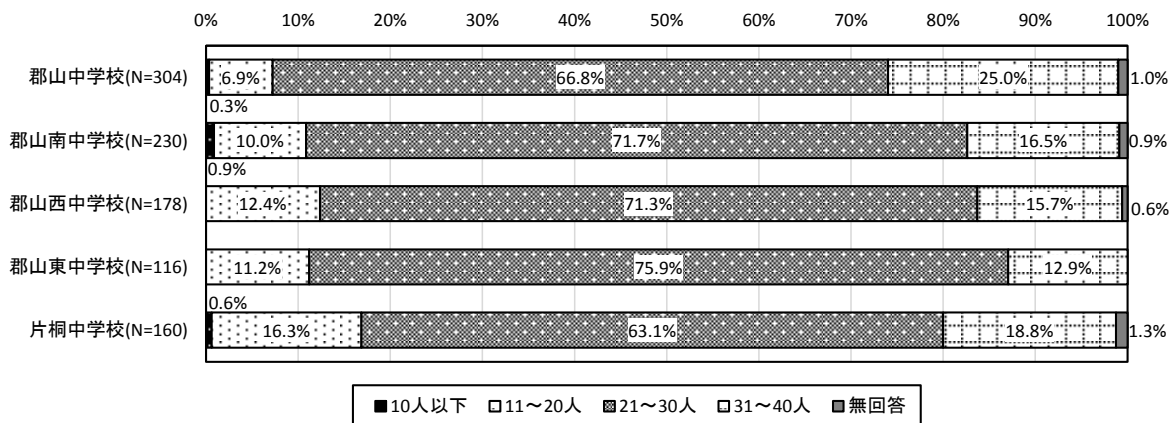
問 11 中学校 1 学級あたりの生徒数は何人程度が望ましいと思いますか。

【全体】

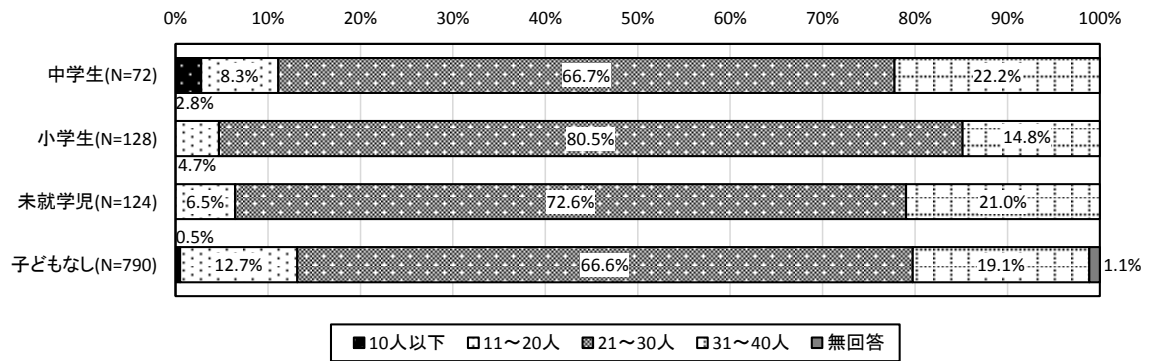


・中学校 1 学級あたりの望ましい生徒数は、「21~30 人」が 68.2%と最も多く、次いで「31~40 人」が 19.3%、「11~20 人」が 11.1%の順に多い。

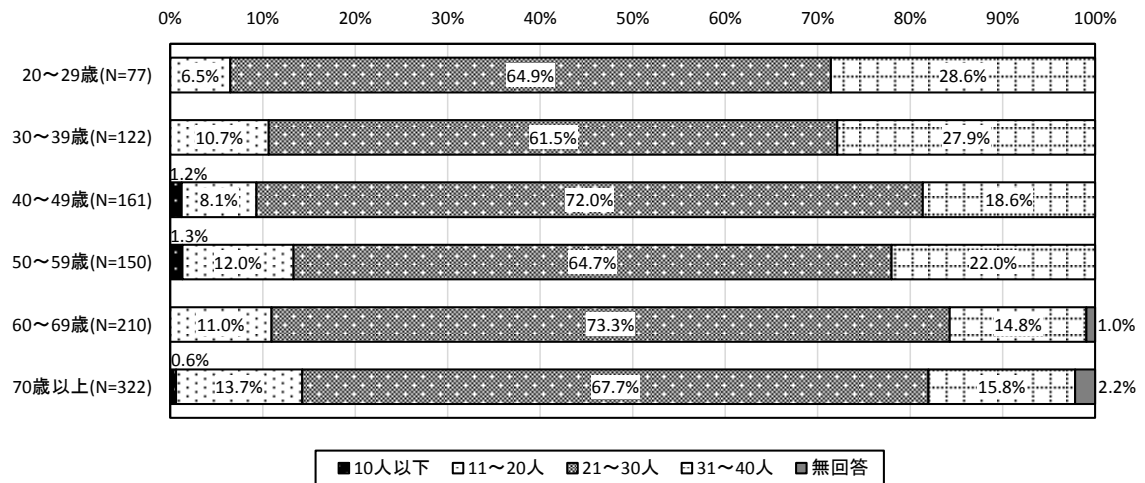
【中学校区別】



【同居している子どもの属性別】

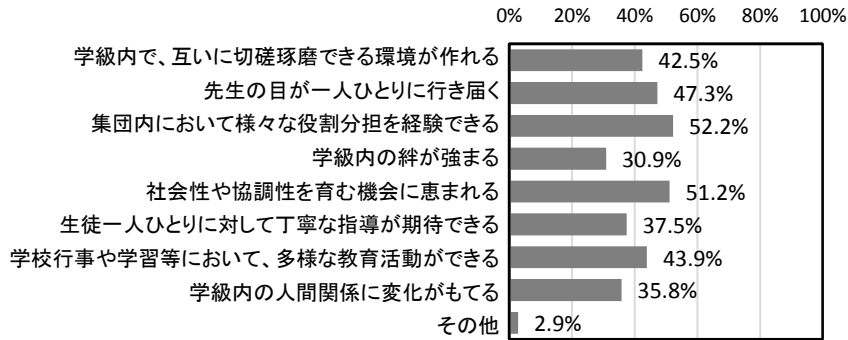


【年齢別】



問 12 問 11 の「中学校 1 学級あたりの望ましい生徒数」を選んだ理由は何ですか。

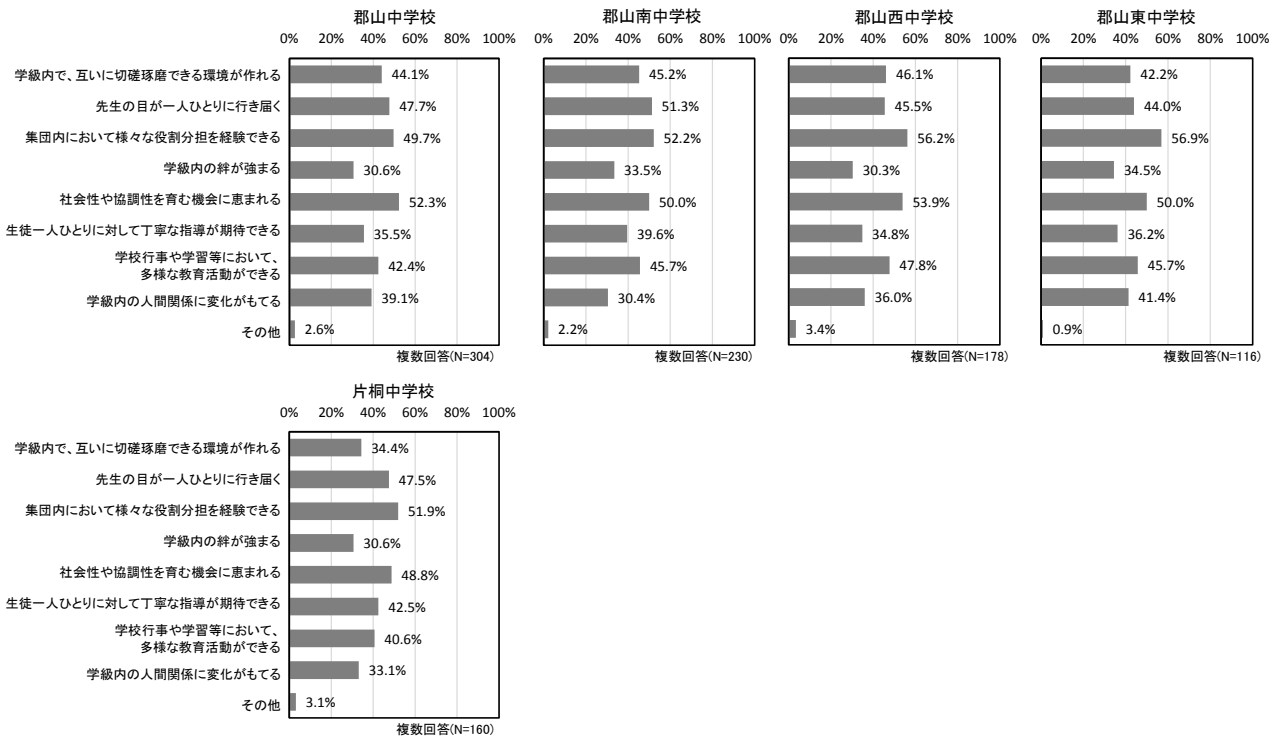
【全体】



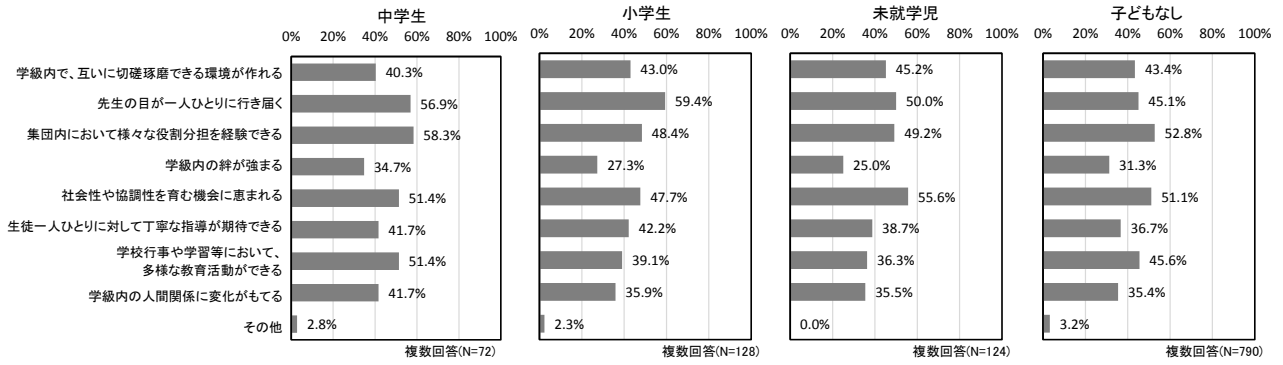
複数回答(N=1,049)

・「中学校 1 学級あたりの望ましい生徒数」を選んだ理由は、「集団内において様々な役割分担を経験できる」が 52.2%と最も多く、次いで「社会性や協調性を育む機会に恵まれる」が 51.2%と多い。

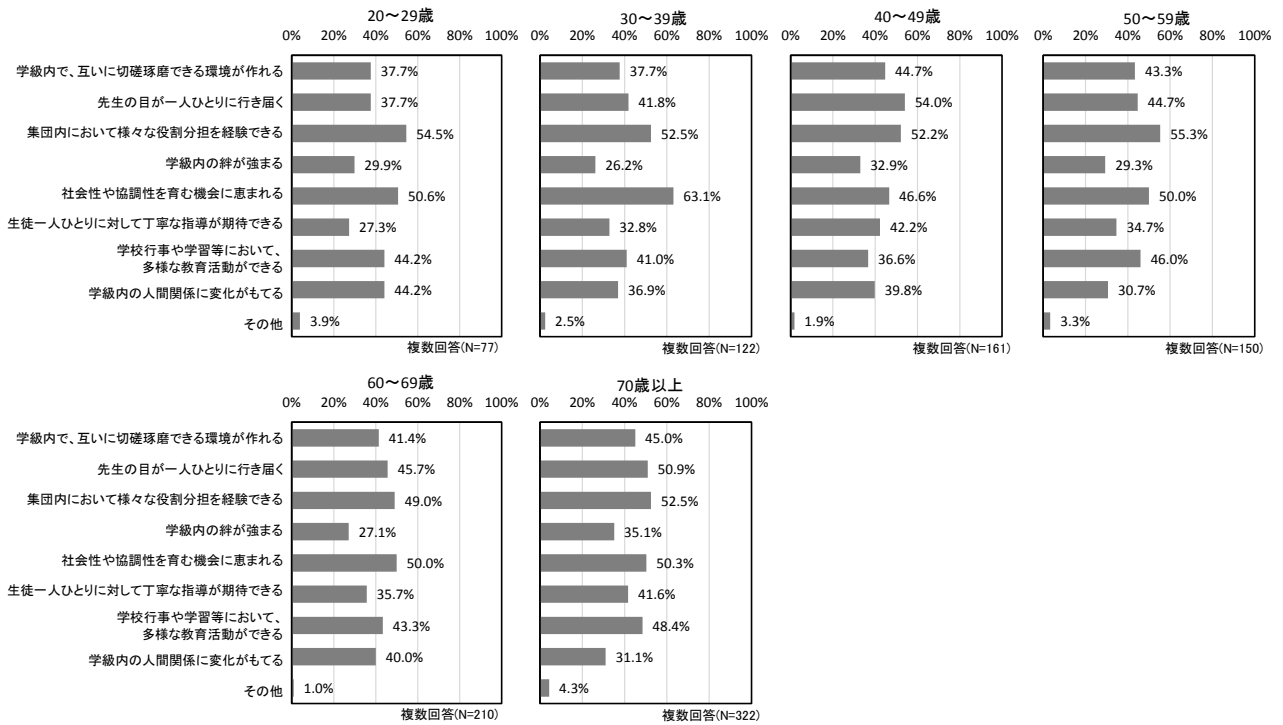
【中学校区別】



【同居している子どもの属性別】

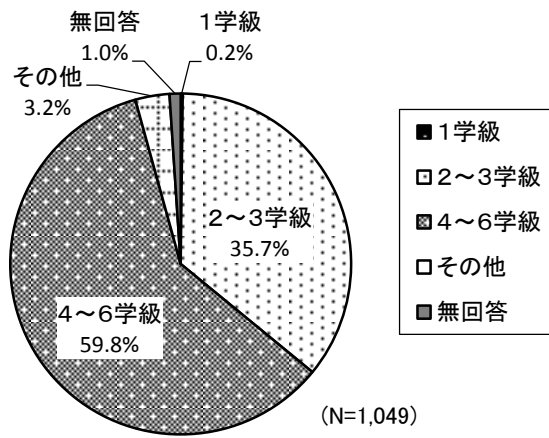


【年齢別】



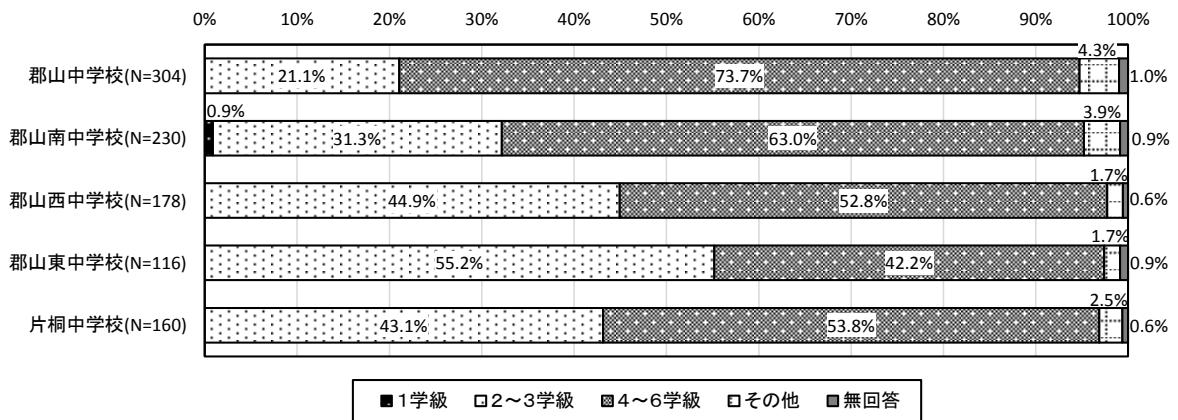
問 13 中学校 1 学年あたりの学級数は、どの程度が望ましいと思いますか。

【全体】

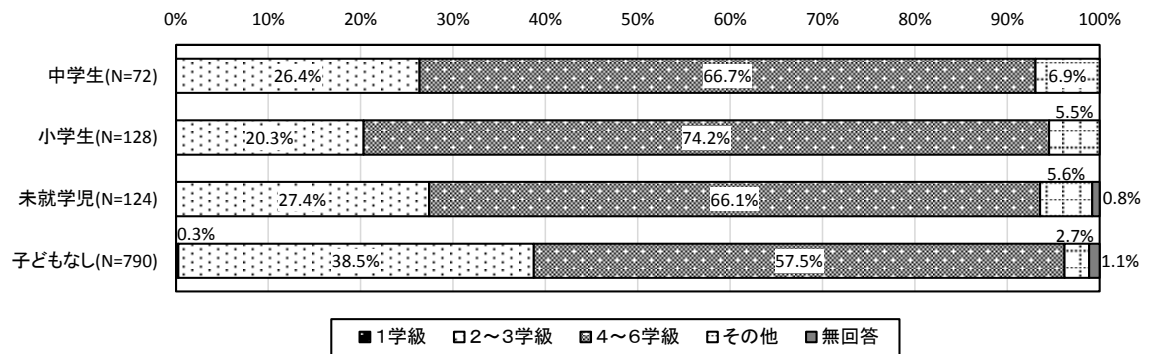


・中学校 1 学年あたりの望ましい学級数は、「4～6 学級」が 59.8%と最も多く、次いで「2～3 学級」が 35.7%と多い。また「1 学級」は 0.2%と少ない。

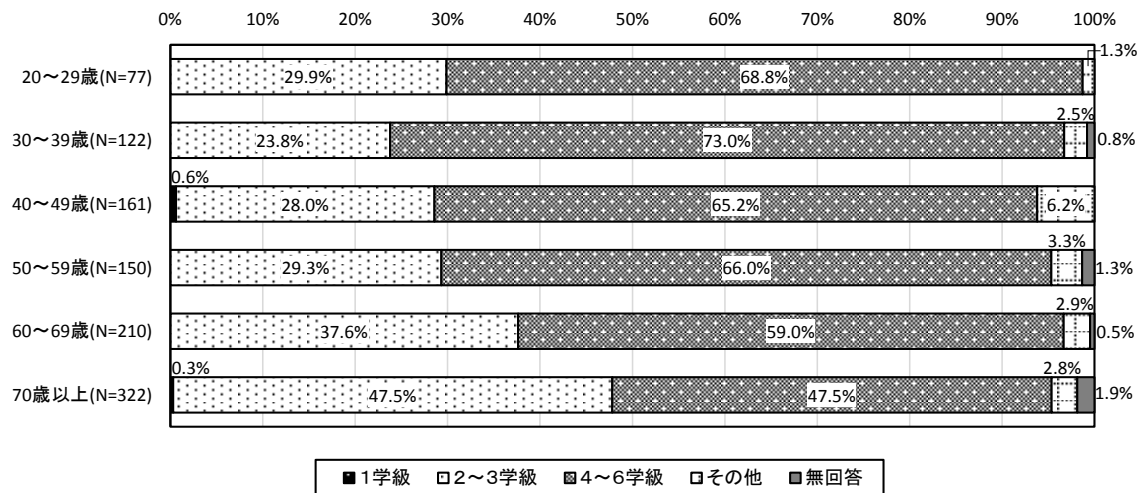
【中学校区別】



【同居している子どもの属性別】

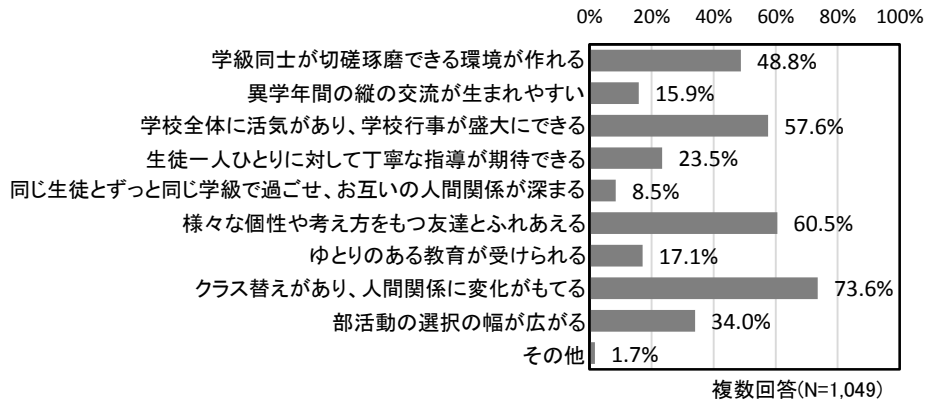


【年齢別】



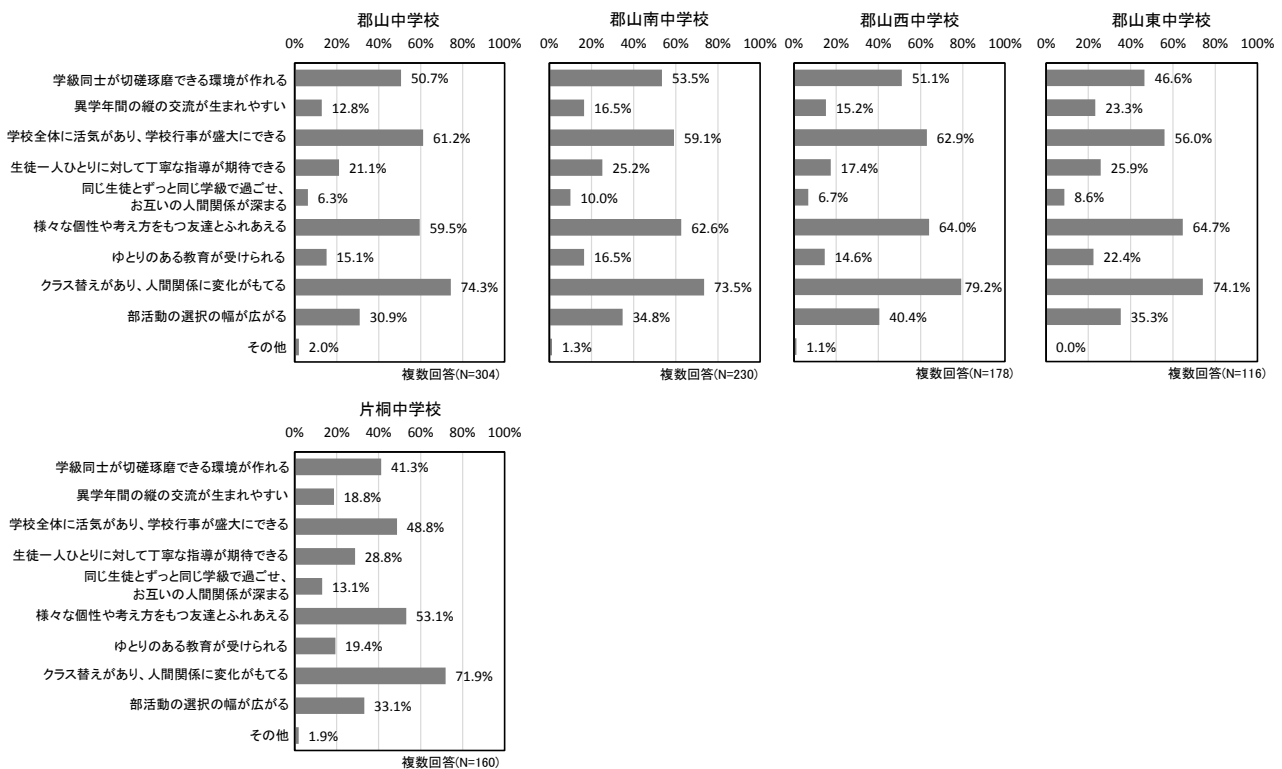
問 14 問 13 の「中学校 1 学年あたりの望ましい学級数」を選んだ理由は何ですか。

【全体】

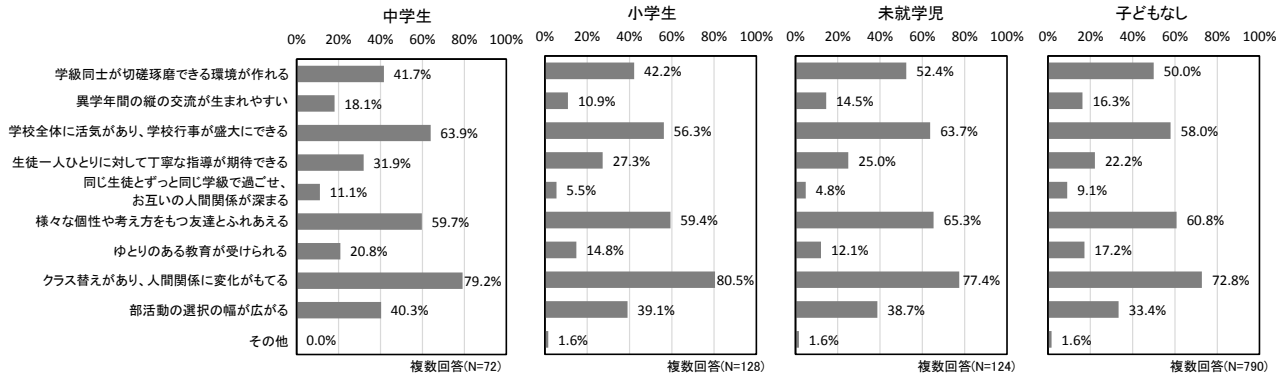


・「中学校 1 学年あたりの望ましい学級数」を選んだ理由は、「クラス替えがあり、人間関係に変化がもてる」が 73.6%と最も多く、次いで「様々な個性や考え方もつ友達とふれあえる」が 60.5%、「学校全体に活気があり、学校行事が盛大にできる」が 57.6%と多い。

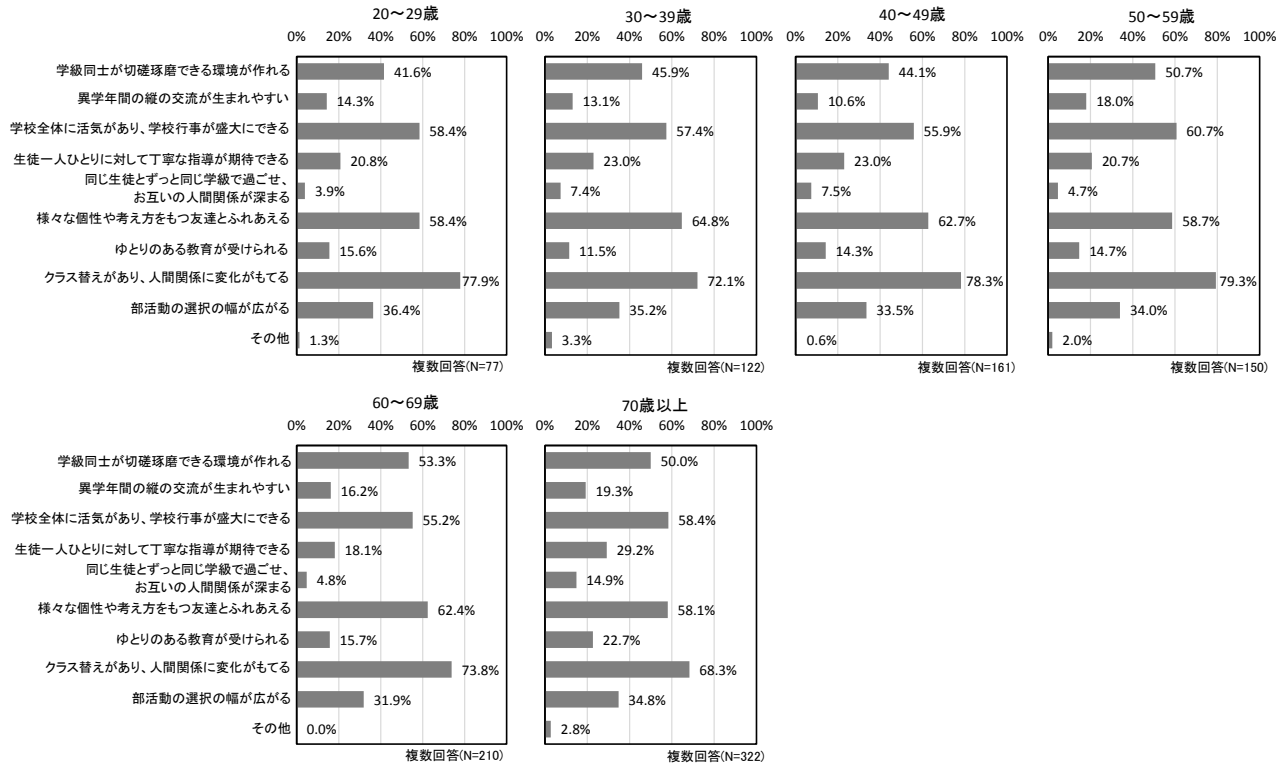
【中学校区別】



【同居している子どもの属性別】

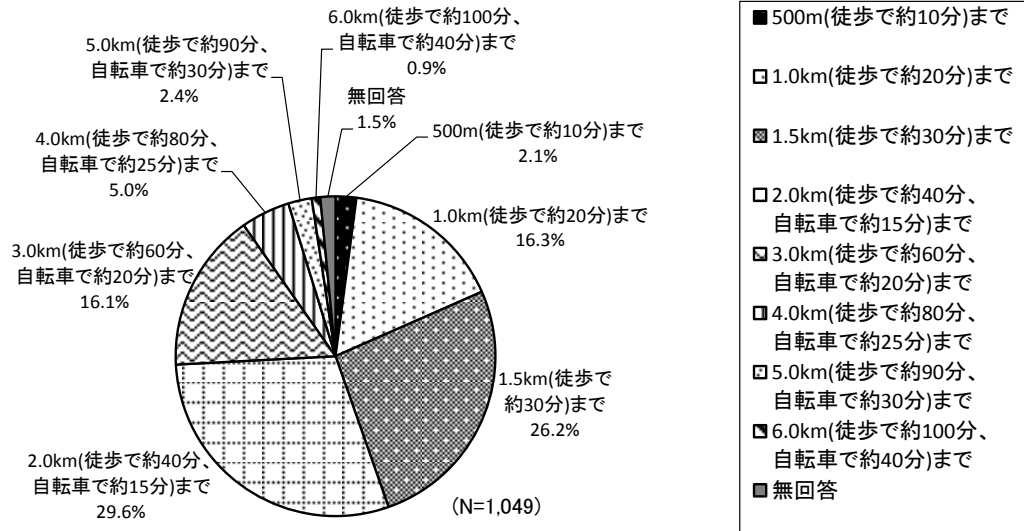


【年齢別】



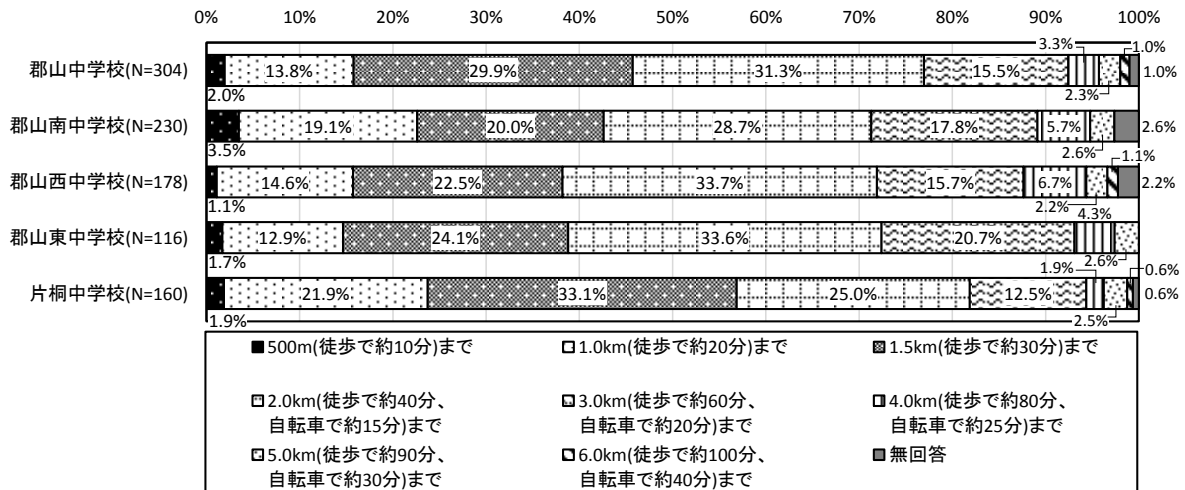
問 15 中学生の通学距離（通学時間）は、どの程度までならよいと思いますか。

【全体】

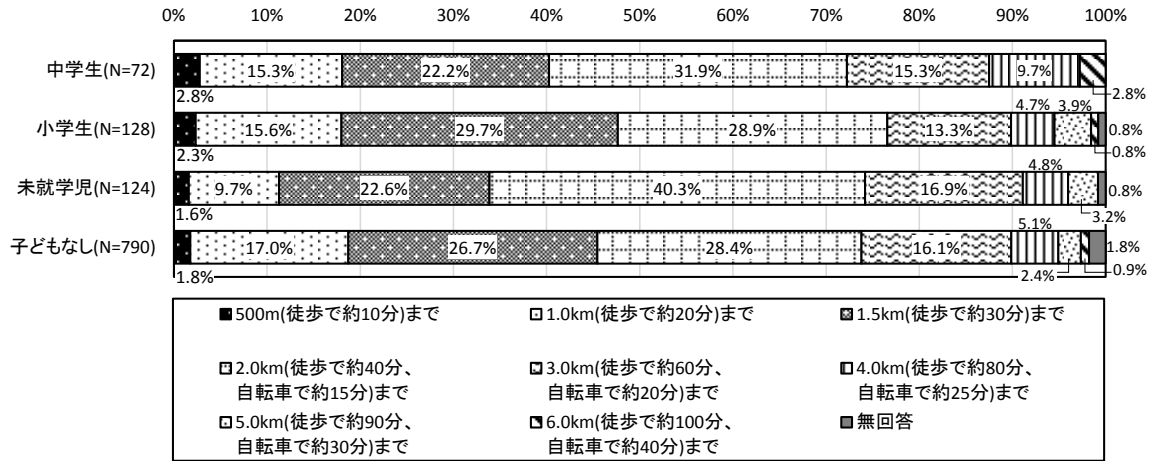


・中学生の望ましい通学距離（通学時間）は、「2.0km(徒歩で約40分、自転車で約15分)まで」が29.6%と最も多く、次いで「1.5km(徒歩で約30分)まで」(26.2%)、「1.0km(徒歩で約20分)まで」(16.3%)の順に多い。

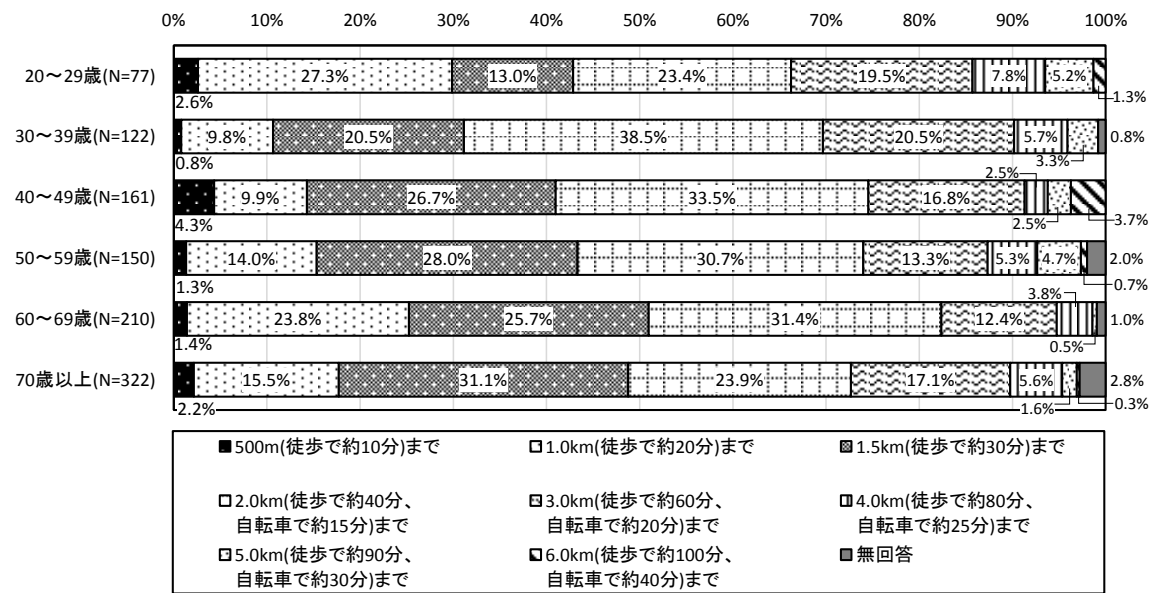
【中学校区別】



【同居している子どもの属性別】



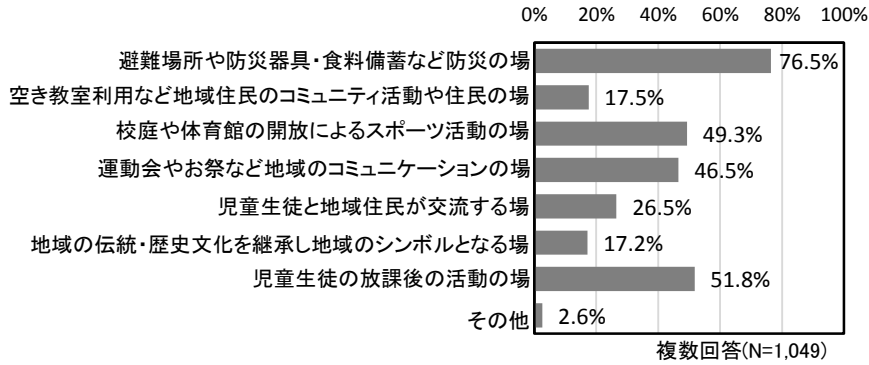
【年齢別】



(4) 地域と学校の関わりについて

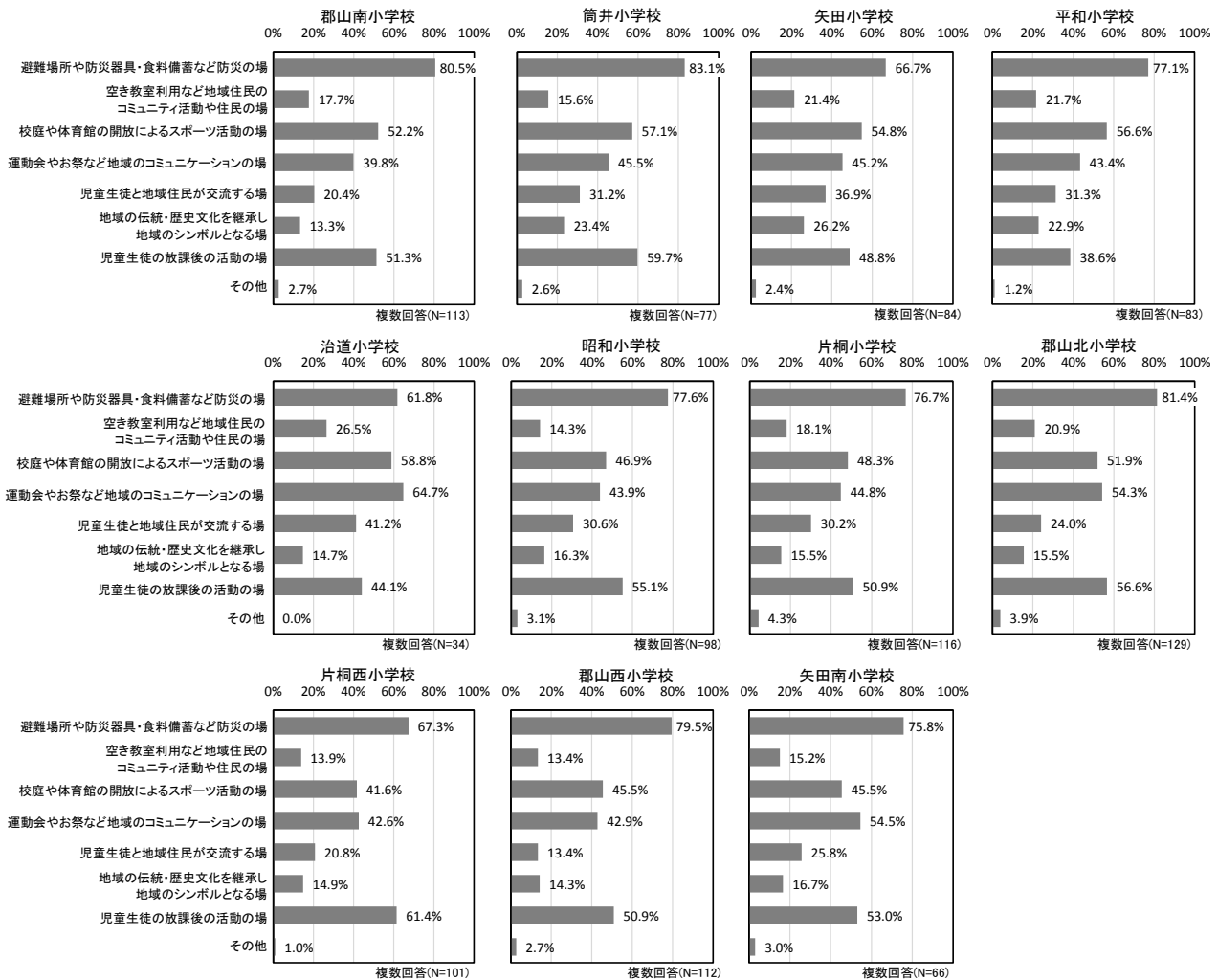
問 16 学校は、地域においてどのような役割を果たしていると思いますか。

【全体】

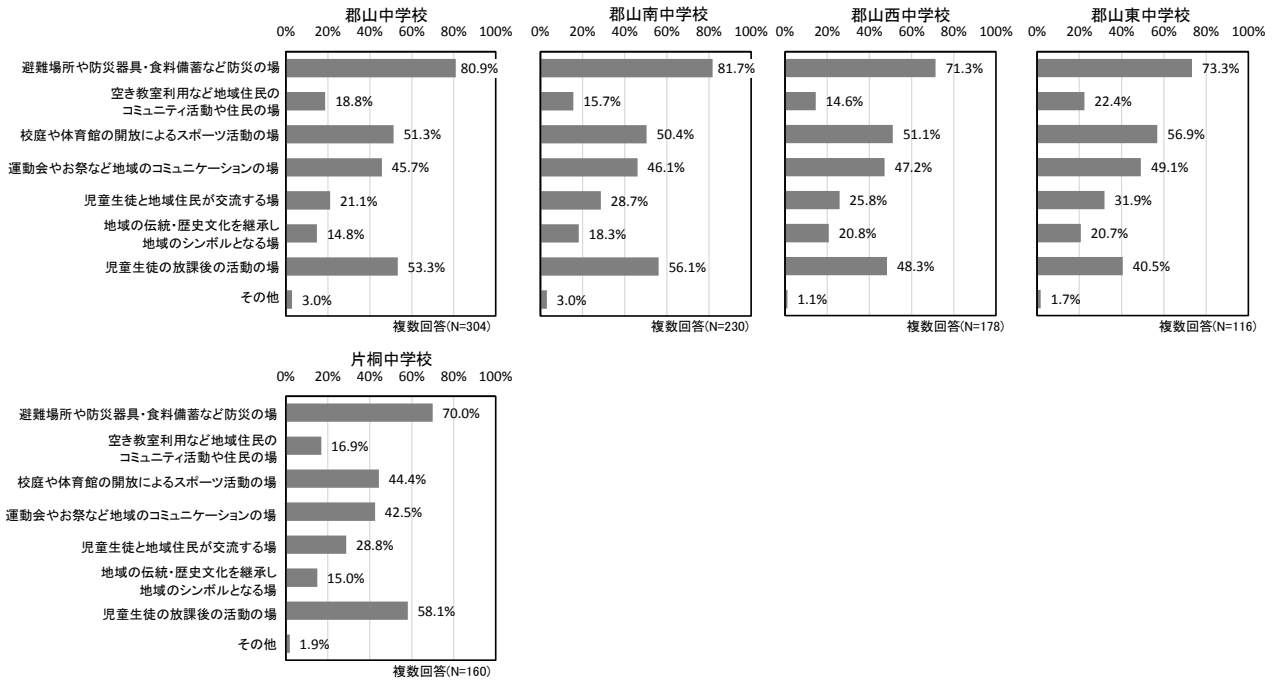


・学校の地域における役割については、「避難場所や防災器具・食料備蓄など防災の場」が76.5%と最も多く、次いで「児童生徒の放課後の活動の場」が51.8%、「校庭や体育館の開放によるスポーツ活動の場」が49.3%と多い。

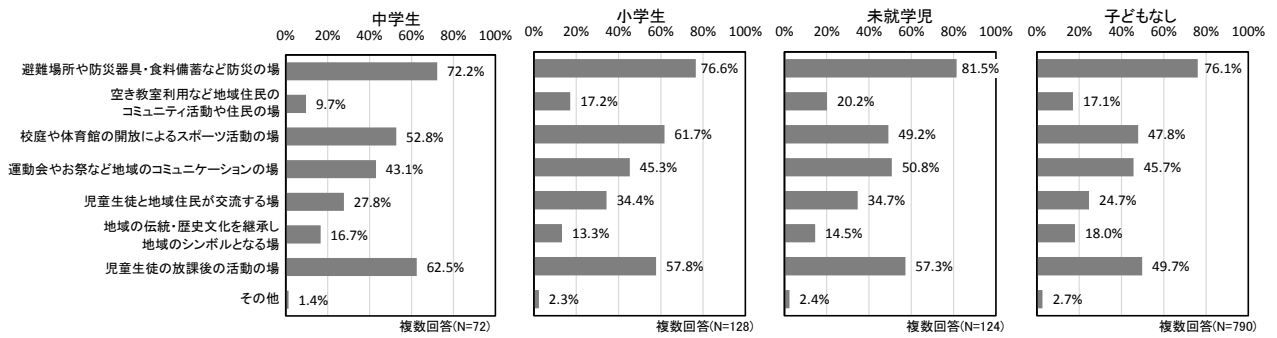
【小学校区別】



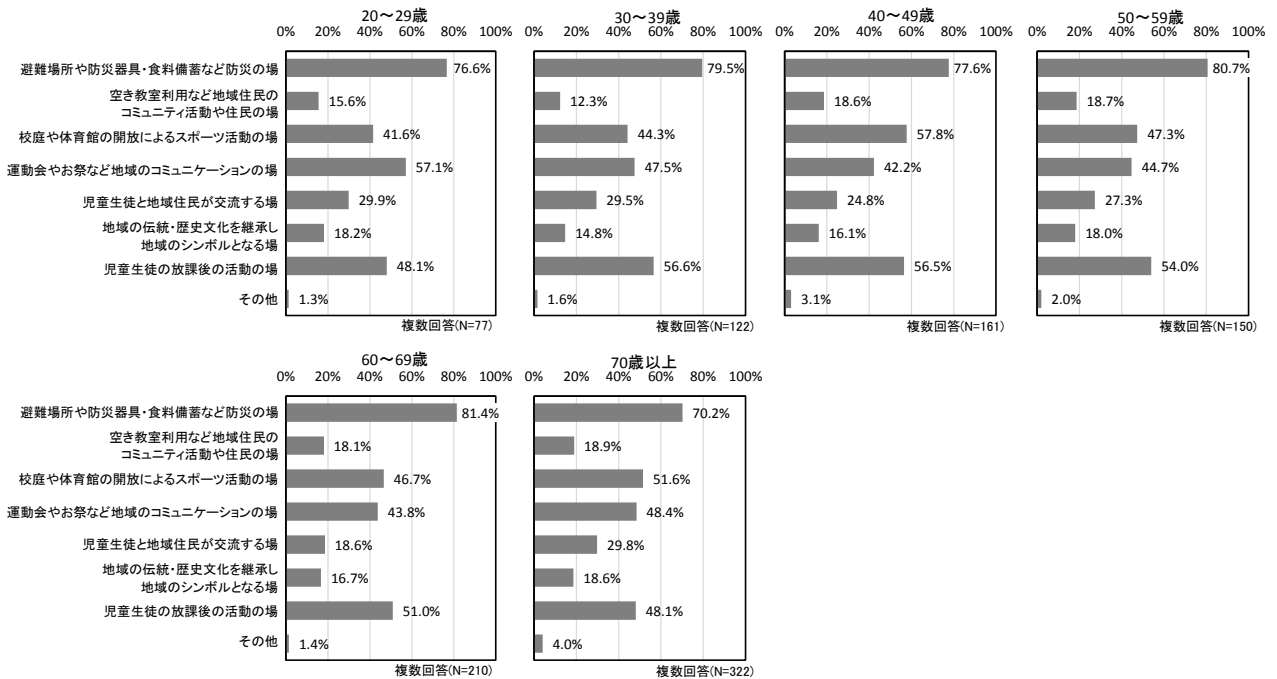
【中学校区別】



【同居している子どもの属性別】

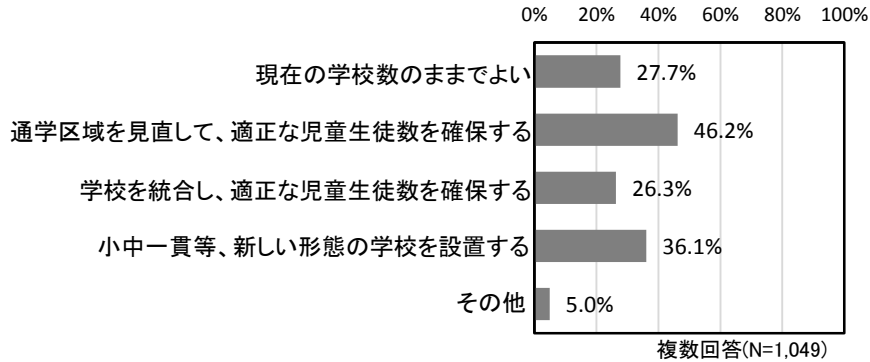


【年齢別】



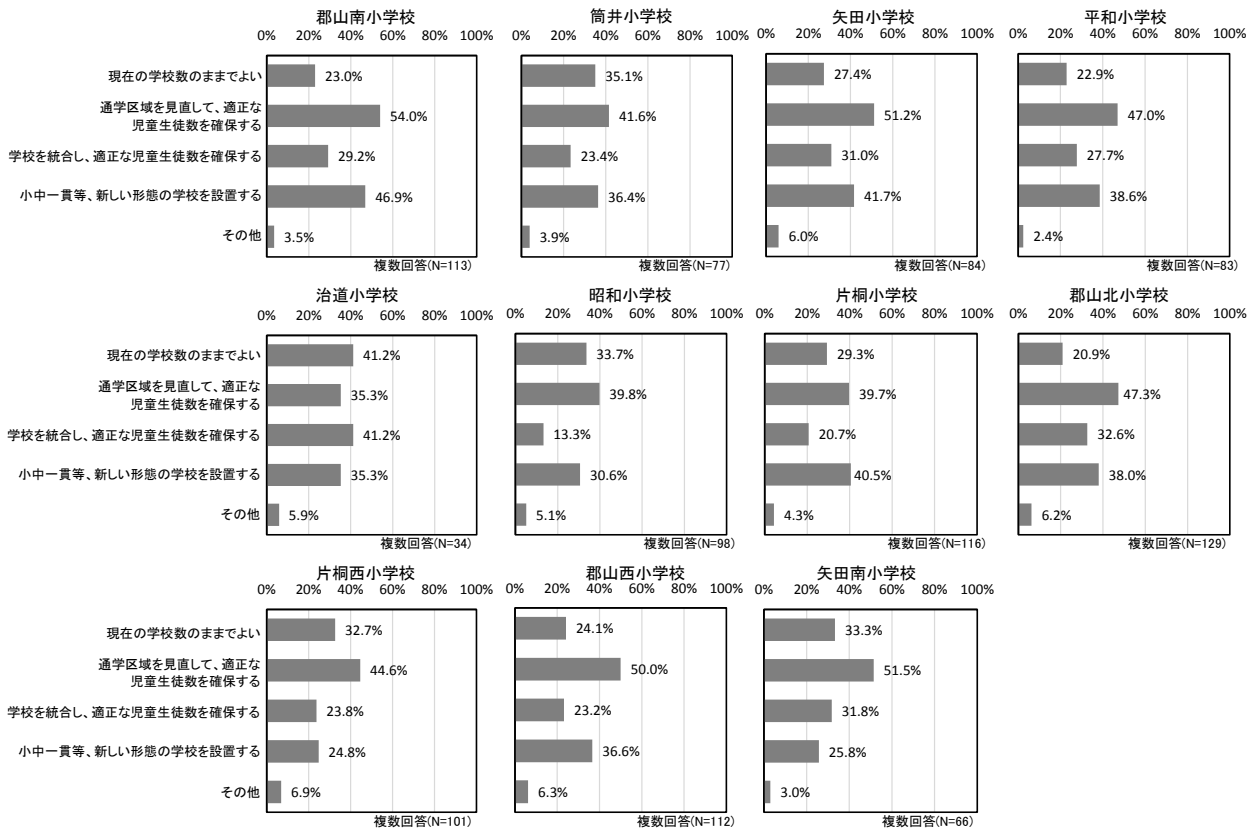
問 17 今後、さらに児童生徒数が少なくなることが想定されます。これからの大和郡山市における活力ある学校づくりに向けて、どのように検討を進めていくことがよいと思いますか。

【全体】

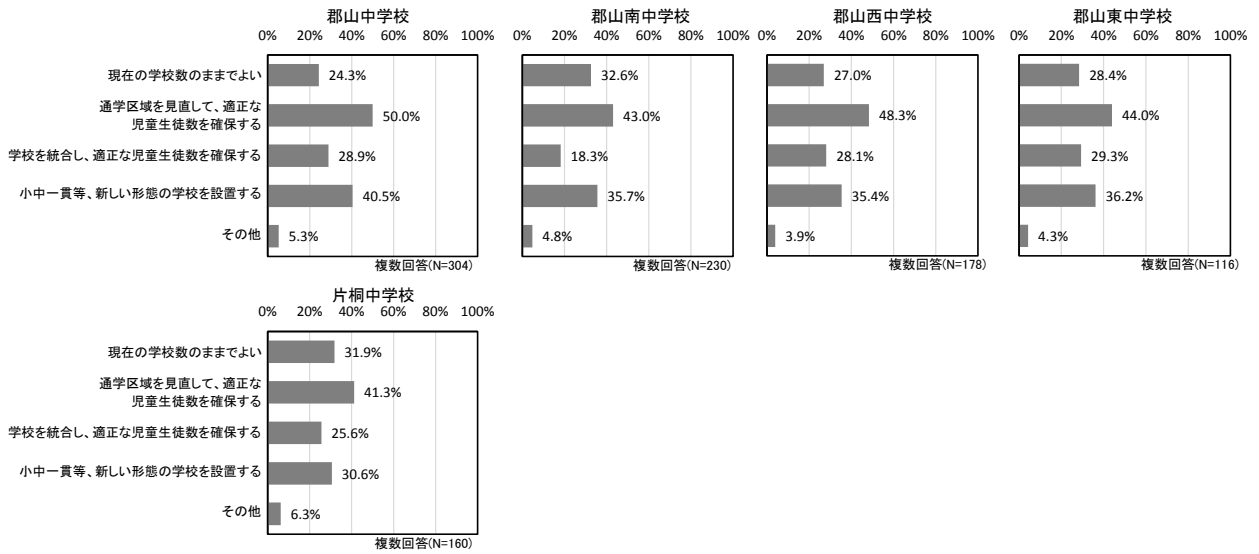


・活力ある学校づくりについては、「通学区域を見直して、適正な児童生徒数を確保する」が46.2%と最も多く、次いで「小中一貫等、新しい形態の学校を設置する」が36.1%、「現在の学校数のままでよい」が27.7%の順に多い。

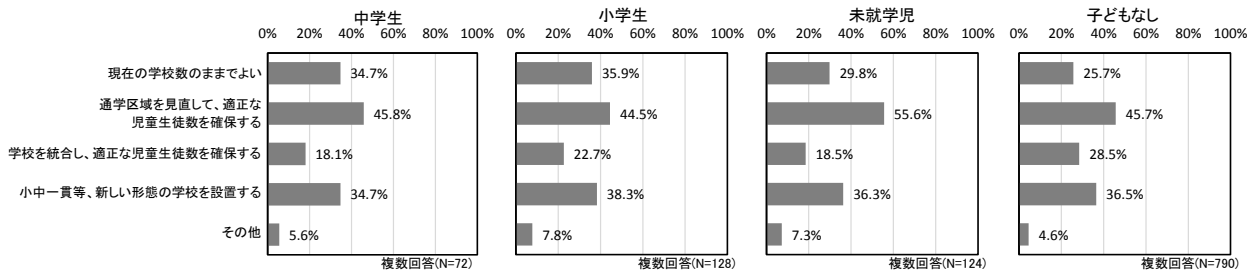
【小学校区別】



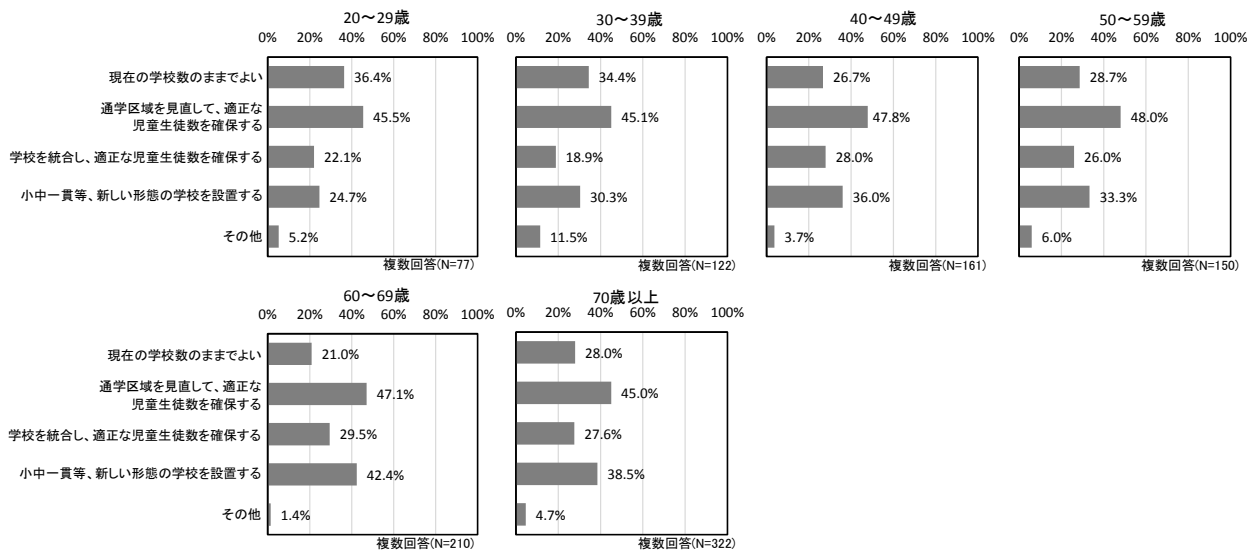
【中学校区別】



【同居している子どもの属性別】



【年齢別】



(5) 自由意見

問 18 大和郡山市の学校の適正規模・適正配置について、ご意見があればご自由にお書きください。

適正規模・適正配置について、225人（304件）から意見等があった。主な意見を以下に示す。

【現状の学校数のままがよい…22件】

○子どもにとって現状のままがよい

- ・小中学校を一貫すると環境の変化がなくなってしまうと思う。小学校から中学校へ学舎が変わることで、自分が成長した自覚が持てるようになると思う。
- ・学校の統合等をすると、学校までの距離が伸びて、通学時間が長くなってしまいう生徒も出てくると思います。朝早く起きて長時間歩かせるのはかわいそうだし、通学で疲れて勉強に集中できないとかなると元も子もないので、出来るだけ現在のままがいいと思います。 等

○地域のために現状のままがよい

- ・「今後さらに児童生徒数が少なくなる事が想定される」からといって「学校を統合」すれば、地域の少子化をますます推進してしまう事となります。
- ・学童の子どもがたくさんおり、子どもを預けている親が困ります。
- ・災害時に避難所が遠くなるのは困る。 等

【統廃合や小中一貫校等を検討…21件】

○統廃合の検討が必要

- ・少子により、学校の減少などである程度統廃合はしかたないと思う。統合することで、学校設備に適正な予算を配分でき、学童に良い環境を与えることができると考える。ただし、あまり、通学距離が遠くなりすぎる事は、良いとは思わない。
- ・子どもが少ない地域は、多い地域の小中学校に統合し、バス通学すればよい。空いた学校の利用は、公民館として地域の方(大人から子どもまで)の学習や運動に使える。 等

○小中一貫校など新しい形態の学校の検討が必要

- ・大勢で活気あり、互いに学び合う場であってほしいと思うので、何らかのかたちで小中学校を組み合わせ、新しい形態の学校を作ってほしいと思います。また、隣接する場所にこども園などがあれば尚、交流できてよいと思います。
- ・統廃合などにより、児童の通学に時間が掛かり、児童に負担が増えるのはよくないと思いますので、学校の数は現状より減らすべきではないと思いますが、少子化が進んで児童が減っていくので小中一貫など、今までとは違う視点を持つのも重要だと思います。 等

【1 学級の児童数・生徒数は少ない方が望ましい…26 件】

- ・各クラスの人数を 25 名程度にさせていただきたい。教師の目がいきとどくようにしていただきたいです。また、低学年のうちには、副担任をつけていただけると、更に充実した学校生活を送れるようになると思います。
- ・元小学校の教員でした。教師の立場からすると 20-30 人までが一番理想の学級の人数でした。(目が行き届く)今はもっと担任の先生が大変です。だから、1 クラス 20 人でもいいぐらいです。でも児童数が少なく、1 クラスしかない学校は、6 年間、クラス替えがないので、いじめが発生すると、なかなか人間関係を修正するのが難しいという問題もあります。 等

【1 学級の児童数・生徒数は多い方が望ましい…10 件】

- ・1 学級(クラス)40 人位いないと多様な人間関係ができないと思う。1 学級(クラス)の人数が少なければ教育の目が行き届くわけでもないと思う。
- ・1 学級あたりの人数が少なすぎると、小さなコミュニティになれてしまい、社会に出る準備という面で厳しいかなと。様々な人と触れることで考え方の幅が広がり、嫌なことも良いことも色々な角度から体験できるし、その人数の中で主張すること、個性を磨くこと、他者との違いを尊重し、人間関係を構築していく面でもせめて、20~30 人学級が望ましいと思います。 等

【児童数・生徒数はバランスよくある方が望ましい…13 件】

- ・1 学年あたりの学級数が地域によって異なるので、同じになるようにしてほしい。中学校によってはやりたい部活がなく、諦めてちがう部活に入っているという情報があります。
- ・進学の時やはり格差があるのではないかと思います。内申書についてでは同じ内申点をもって受験しても、学校間では生徒の実力には差があると、よく話を聞きます。それぞれの中学校が、同じ位の規模になるのが理想的だと思います。 等

【複数クラスある方が望ましい…17 件】

- ・1 学級で良いこともたくさんあります。ひとりひとりのつながりも深くなりみとめあうことができますが、それが崩れると大変なことになります。クラス替えがあることが望ましいです。中学校もクラスが多いほど行事が盛り上がり楽しく過ごせると思います。
- ・1 学級では、子どもの環境がかわりにくく、良好な関係が保てられれば良いが、うまくいかなくなると、人間関係を保つのが難しくなる。上下関係が卒業まで続いたり、人間関係がこじれたままだということもあるので、2~3 学級でクラス替えがある方が良いと思う。 等

【通学距離は短い方が望ましい…46件】

○子どもの負担軽減

- ・現在30分かかるが、更に増えると朝早くから通学、帰宅時間も遅くなり、子供達の休憩、友人との遊び、習い事等の学校外の時間が減り余裕がなくなる。
- ・通学時間は徒歩40分以上になると、小学生は大変だと思う。 等

○通学中の事故・犯罪発生の懸念

- ・児童数が減少していく傾向がある中で難しい部分もあるとは思いますが、これだけ頻繁に「不審者情報」が届く中で、通学距離が増える(伸びる)ことは心配ではあります。
- ・小学校の通学に関わる時間は30分が限度。特に低学年の子どもは、距離が増えれば増える程通学途中の事故など心配。 等

【校区の見直し・自由選択…19件】

○校区の見直し

- ・地理的には、現状の5校区の中学校の配置は、適正だと思うが、生徒数の多い中学校の通学区域を検討して、適正な生徒数を確保する学校をつくる事が必要だと思う。
- ・小学校においては、隣接と思われる校区がある反面、通学に時間を要する校区も存在し、均一化を検討する必要があるのではと思う。中学校においても全市的に配置を再検討しても良いのでは。 等

○校区を自由に選択

- ・校区が一番遠くに自宅のある生徒は、となりの中学校の方が近いという現状もあると思いますので、通学時間のことを考えると中学校になる時に校区を選択できるようになればいいと思います。
- ・ある程度の校区制は必要だと思うが親の仕事等によることを配慮し、どこの学校にでも通学できればいいのでは。 等

【スクールバス…17件】

- ・生徒数の確保のため学区が広まり、通学時間、距離が長くなるのであれば、スクールバスなど生徒が無料で利用できるものを用意していただきたいです。
- ・通学距離が長い学校については、スクールバスを配置すべきではないかと考える。 等

【通学路の整備…7件】

- ・中学校への通学に時間がかかり自転車で通っているが、自動車など危ない通学路があるため、対策してほしい。 等

【教育の充実…30件】

○職員数の確保

- ・各学校の児童、生徒数をバランス良くするために統廃合もやむを得ない。けれど先生の数には減らさないで充実した教育が受けられるようにしてほしい。
- ・子どもが少なくなってくることはわかるが、それをみこしての正教員削減は教育の質が落ちる。講師は1年更新なので責任感もうすれてくる。財政の工夫で、未来の地域の宝を育てることは可能だと思う。教員第一で規模、配置を考えてもらいたい。 等

○先生の目が届くクラス編成

- ・なるべく少人数制で、先生方の目の届く範囲内の人数で、今より、より充実した教育環境にしてほしい。
- ・習いたい科目を学生に選択させ、専門的な知識を教える科目があってもいいと思う。現状の学校数を維持し、1学級の児童(学生)数を少なくし、先生が生徒のことをしっかり理解できる体制にする。又、先生の負担も軽減すべきである。 等

【学校施設・設備の整備…13件】

- ・学級数の増減は不必要と思うが、老朽化が認められる学校やエアコンのない教室などの改善を。
- ・郡山北、南小程度の規模を確保して欲しい。ただ古くなっている校舎が多いので建て替えや場所の変更はあっても良いと思う。 等

【まちづくり（地域活性化など）…20件】

- ・大和郡山市の人口減少傾向に歯止めをかけ、住民が増える対策、例えば、若者が住みやすい環境作り(働く場所の確保、住宅の整備、子どもを育てる環境等)を講じた上で、教育問題、学校問題を考えるべきと思います。
- ・学校の適正規模や適正配置について考えるのではなく、大和郡山市の住民や世帯数などを中心に将来を考える様にする事が大切。 等

【その他の意見…43件】

- ・児童数の減少に伴い規模適正化は重要な事ですが大和郡山市の環境に合った取組が必要です。当市と同じ様な市等を参考にして学校配置をすると良いと思います。
- ・市民の意見も大切ですが、教育等される先生方の意見がより大切であり、自己啓発に努められる環境作りを学校の幹部職員や教育委員会に期待しています。 等

問 19 あなたがお住まいの校区の小中学校について、「地域との関わり」という観点から、ご意見があればご自由にお書きください。

学校と地域との関わりについて、205人（247件）から意見等があった。主な意見を以下に示す。

【地域との交流がない・希薄化…45件】

- ・子どもが大きくなってからは、遠い存在となっている。シニア世代が増えている。何か手伝える事があれば手伝える事を言ってもらい、子ども達の成長を地域の人が見守る様に出来るシステム作りがあれば良いと思う。
- ・現在未就学児の親ですが、あまり小学校の情報が入ってきません。将来通う予定の小学校なのでもう少し交流があれば安心できます。例えば、子育て教室などを小学校の空教室をお借りして実施していただければ、小学校の様子なども伺う事ができてありがたいです。 等

【地域について学ぶ（地域で学ぶ・地域の人から学ぶ等）…18件】

- ・歴史教育(少なくとも戦国時代)もっと遡れば古事記の時代を折角脾田が有るのだから小学生中学生は学ぶべきだと思います。郷土の事を知ればそれは自分を知る事に成るのだから又大人に成ってきつとバックボーンに成ると思います。
- ・学業以外の体験学習の機会がもっと増えるといいと思います。(職場体験など)。 等

【行事・イベント（運動会、お祭りなど）…22件】

- ・児童生徒と近隣住民が積極的に関わる行事などを行い世代間交流ができればいいと思います。
- ・定期的な行事等を自治会も含めて計画をして、高齢者の方々が集えるコミュニティスペースになれば良い。 等

【ボランティア…17件】

- ・子ども達が、もっと地域でのボランティア活動を通じて、人としての人格形成が出来ればいいと思う。特に、中学校ではもっと地域住民とのコミュニケーションの場を増やすことが大切だと感じる。
- ・朝や帰りの登下校中の見守り隊の方々には感謝している。共働き世帯が多く、子どもの安全確保のことを考えると、ボランティアの方々が交差点などで見守って下さるのは本当に有り難い。 等

【高齢者との交流…13件】

- ・最近はお年寄りも増えているのでその人たちとふれあう時間をつくる事でお年寄りに対しての優しさを学ぶことで人に対する思いやりをもっと学べると思います。
- ・異世代交流は若い人にとっては古き文化を知る機会に、年配の人にとっては若者との交流が生きがいにつながると考えられます。その交流の場として学校を活用してほしいです。 等

【情報提供…5件】

- ・学校として地域に開かれた情報を公開してほしい。
- ・登下校の見回り以外の活動を知りません。どのように関わりをもっているのか広報してください。 等

【空き教室・グラウンドの開放…26件】

- ・中学校のテスト休みなど地元のスポーツチームなどに積極的にグラウンドや体育館を開放して欲しいと思います。
- ・空いている教室も増えてくるので、大人が楽しく勉強できる様な事があれば、使わせてほしいと思います。 等

【犯罪発生が懸念…20件】

- ・地域との関わりは校庭等の全面開放を望んで居りますが、事件・事故等が考えられ本当に難しい問題だと思います。
- ・時代と共に地域と学校が離れてきているように思います。当然門は誰でも入れるようにはできないし、保護者である目印がなければ入れませんが、自由に出入りできていた時代が懐かしい気もします。かといって児童の安全を守るためには仕方ないことでしょうね。 等

【挨拶…12件】

- ・朝通学時の児童に「おはよう、気を付けて!!」と声をかけることが、唯一の関わりである。
- ・子供が地域の人と関わりがないので、知らないふりをしているのか、声をかけても知らんぷりするのが少し気になります。 等

【災害時の避難場所…15件】

- ・子供達が卒業して以来、全くといっていいほど関わりがない。いざという時の避難場所になっているが、普段からもっと集まりやすい行ってみたくなる場になってほしい。
- ・小中学生と高齢者の関わりを多く持つことで災害時の共助ができるのではないかと思います。元気な高齢者が低学年を、中学生は高齢者を気遣う気持ちができる様に思います。公民館、体育館での避難所生活になった時、良い関係ができるかもと思います。 等

【学校施設・設備の整備…4件】

- ・地域の関わりで色々な人が入るには段差が多い。トイレの使い勝手が悪い。車の出し入れと歩行者の道路が分けられておらず危険。改善して欲しい。 等

【その他の意見…50件】

- ・地域との関わりを深めることにより、学生として社会に出た時の知識や技術の向上を目指すべきである。
- ・子供の有る親と無い親、または高齢者の隔たりが大きい地域においてもっと子供を大切にすることが必要。学校はその人たちとのつながりの場となるようにする。 等

3. 資料編

(1) 案内文

学校の適正規模等に関する市民アンケート 調査へのご協力をお願い

皆様には、日頃より本市の教育についてご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

近年、全国的な少子化の進展に伴う学校の小規模化に伴い、教育上・学校運営上の様々な課題が指摘されております。本市においても児童生徒数は減少傾向にあります。

こうした問題を受け、平成 29 年 12 月、大和郡山市学校規模適正化等審議会が設置され、平成 30 年 5 月教育委員会より諮問を受け、小中学校の児童生徒数・学級数の規模や本市における学校の配置等について、様々な視点から検討を進めているところです。

この調査は、審議会での検討の参考資料とするために、大和郡山市の児童生徒にとっての望ましい教育環境の確保と活力ある学校づくりに向けて、市民の皆様のご意見を広くお聞きすることを目的として実施するものです。

なお、このアンケートは市内在住の 20 歳以上の市民の皆様の中から無作為に 2,500 人を抽出しております。

調査の趣旨をご理解いただき、ご協力賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成 31 年 2 月

大和郡山市学校規模適正化等審議会

*** ご記入にあたってのお願い ***

1. 市民の皆様のご意見を広くお聞きするため、小学生や中学生のお子さまがいらっしゃる方についても、調査へのご協力をお願いいたします。
2. この調査は、無記名方式です。名前は書かないでください。
回答いただいた調査の結果は、すべて統計的に処理し、個人を特定することはありません。また、本調査の目的以外には使用しません。
3. 回答は、黒のボールペン、または濃い鉛筆で、同封の調査票に直接ご記入ください。
調査票は 8 ページあります。
4. 回答が終わりましたら、同封の返信用封筒に入れ、平成 31 年 2 月 25 日（月）までに投函してください。（切手は不要です。）

【本調査に関するお問合せ先】

学校規模適正化等審議会事務局：大和郡山市役所教育委員会 教育総務課 総務係

所在地：〒639-1198 奈良県大和郡山市北郡山町 248 番地 4

電話：0743-53-1151（代表） 内線 713

F A X：0743-52-3211

※本審議会の審議経過について、市のホームページで閲覧できます。市のホームページ内で、検索ワード「学校規模適正化等審議会」とご入力ください。

(2) 調査票

学校の適正規模等に関する市民アンケート
＜ 調 査 票 ＞

あなたについてお伺いします。

問1 あなたの年齢を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 20～29 歳 | 2. 30～39 歳 | 3. 40～49 歳 |
| 4. 50～59 歳 | 5. 60～69 歳 | 6. 70 歳以上 |

問2 あなたがお住まいの小学校区を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

- | | | |
|------------|------------|-----------|
| 1. 郡山南小学校 | 2. 筒井小学校 | 3. 矢田小学校 |
| 4. 平和小学校 | 5. 治道小学校 | 6. 昭和小学校 |
| 7. 片桐小学校 | 8. 郡山北小学校 | 9. 片桐西小学校 |
| 10. 郡山西小学校 | 11. 矢田南小学校 | 12. わからない |

問3 あなたがお住まいの中学校区を教えてください。(あてはまるもの1つに○)

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 郡山中学校 | 2. 郡山南中学校 | 3. 郡山西中学校 |
| 4. 郡山東中学校 | 5. 片桐中学校 | 6. わからない |

問4 現在、同居している中学生以下のお子さまはいらっしゃいますか。(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|-------|--------------|
| 1. はい | 2. いいえ ⇒ 問6へ |
|-------|--------------|

※問4で「1. はい」と回答した方に伺います。

問5 そのお子さまは、次の選択肢のうち、どれに当てはまりますか。

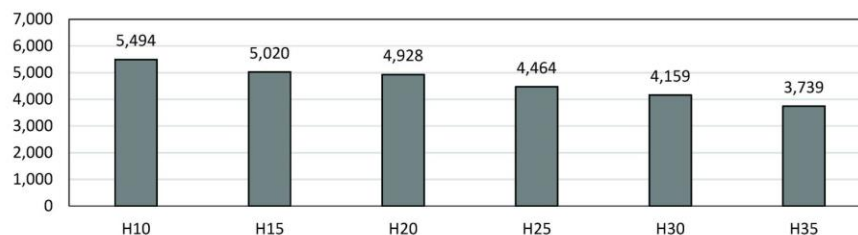
(複数名いらっしゃる場合は、あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|---------|--------|--------|
| 1. 未就学児 | 2. 小学生 | 3. 中学生 |
|---------|--------|--------|

※ 下記 2・3 ページの《参考》をご参照のうえ、4 ページ目以降の問いにお答えください。

《 参 考 》

・大和郡山市の小学校児童数の推移（全体）



※H35 年の児童数は、住民基本台帳をもとに推計したもの

・大和郡山市の小学校別全校児童数・平均児童数・学級数（平成 30 年 5 月 1 日現在）

学校名	全校児童数	1 学級あたり 平均児童数	1 学年あたり 学級数
郡山南小学校	629 人	32 人	3～4 学級
筒井小学校	370 人	30 人	2 学級
矢田小学校	225 人	25 人	1～2 学級
平和小学校	283 人	25 人	1～2 学級
治道小学校	91 人	14 人	1 学級
昭和小学校	383 人	26 人	2～3 学級
片桐小学校	399 人	27 人	2～3 学級
郡山北小学校	573 人	29 人	3～4 学級
片桐西小学校	443 人	25 人	2～3 学級
郡山西小学校	483 人	26 人	3 学級
矢田南小学校	280 人	25 人	1～2 学級

※1 学級あたり平均児童数・1 学年あたり学級数については、特別支援学級の数は除く

・国の学級編制の標準

1 学級あたり児童数	1 学年あたり学級数	通学距離等
40 人（1 年生は 35 人）	2～3 学級	4km 以内

・国の通学距離、通学時間の目安

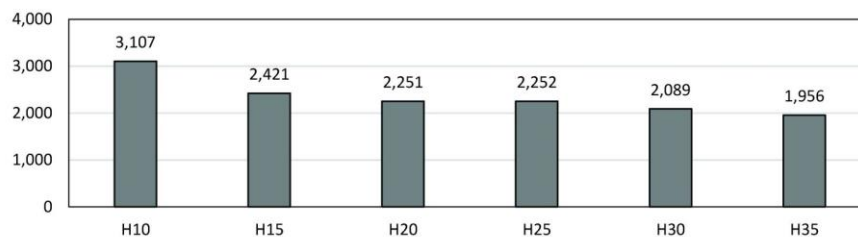
通学距離（※1）	通学時間（※2）
4km 以内	おおむね 1 時間以内

※1 通学距離：徒歩、自転車による通学の目安

※2 通学時間：公共交通機関等を利用し、「通学距離」を超えて通学する場合の目安
（平成 27 年 1 月に新たに追加）

《 参 考 》

・大和郡山市の中学校生徒数の推移（全体）



※H35年の生徒数は、住民基本台帳をもとに推計したもの

・大和郡山市の中学校別全校生徒数・平均生徒数・学級数（平成30年5月1日現在）

学校名	全校生徒数	1学級あたり平均生徒数	1学年あたり学級数
郡山中学校	734人	34人	7学級
郡山南中学校	554人	32人	5～6学級
郡山西中学校	344人	28人	4学級
郡山東中学校	176人	29人	2学級
片桐中学校	281人	30人	3学級

※1学級あたり平均生徒数・1学年あたり学級数については、特別支援学級の数は除く

・国の学級編制の標準

1学級あたり生徒数	1学年あたり学級数	通学距離等
40人	4～6学級	6km以内

・国の通学距離、通学時間の目安

通学距離（※1）	通学時間（※2）
6km以内	おおむね1時間以内

※1 通学距離：徒歩、自転車による通学の目安

※2 通学時間：公共交通機関等を利用し、「通学距離」を超えて通学する場合の目安
（平成27年1月に新たに追加）

小学校についてお伺いします。

問6 小学校1学級あたりの児童数は何人程度が望ましいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 10人以下 2. 11～20人 3. 21～30人 4. 31～40人

問7 問6の「小学校1学級あたりの望ましい児童数」を選んだ理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 学級内で、互いに切磋琢磨できる環境が作れる
2. 先生の目が一人ひとりに行き届く
3. 集団内において様々な役割分担を経験できる
4. 学級内の絆が強まる
5. 社会性や協調性を育む機会に恵まれる
6. 児童一人ひとりに対して丁寧な指導が期待できる
7. 学校行事や学習等において、多様な教育活動ができる
8. 学級内の人間関係に変化がもてる
9. その他 ()

問8 小学校1学年あたりの学級数は、どの程度が望ましいと思いますか。(あてはまるもの1つに○)

1. 1学級 2. 2～3学級 3. 4～6学級
4. その他 ()

問9 問8の「小学校1学年あたりの望ましい学級数」を選んだ理由は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 学級同士が切磋琢磨できる環境が作れる
2. 異学年間の縦の交流が生まれやすい
3. 学校全体に活気があり、学校行事が盛大にできる
4. 児童一人ひとりに対して丁寧な指導が期待できる
5. 同じ児童とずっと同じ学級で過ごせ、お互いの人間関係が深まる
6. 様々な個性や考え方をもち友達とふれあえる
7. ゆとりのある教育が受けられる
8. クラス替えがあり、人間関係に変化がもてる
9. その他 ()

問 10 小学生の通学距離（通学時間）は、どの程度までならよいと思いますか。
（あてはまるもの1つに○）

- | | |
|-----------------------|------------------------|
| 1. 500m（徒歩で約 10 分）まで | 2. 1.0km（徒歩で約 20 分）まで |
| 3. 1.5km（徒歩で約 30 分）まで | 4. 2.0km（徒歩で約 40 分）まで |
| 5. 3.0km（徒歩で約 60 分）まで | 6. 4.0km（徒歩で約 80 分）まで |
| 7. 5.0km（徒歩で約 90 分）まで | 8. 6.0km（徒歩で約 100 分）まで |

中学校についてお伺いします。

問 11 中学校 1 学級あたりの生徒数は何人程度が望ましいと思いますか。（あてはまるもの 1 つに○）

- | | | | |
|-----------|------------|------------|------------|
| 1. 10 人以下 | 2. 11～20 人 | 3. 21～30 人 | 4. 31～40 人 |
|-----------|------------|------------|------------|

問 12 問 11 の「中学校 1 学級あたりの望ましい生徒数」を選んだ理由は何ですか。
（あてはまるものすべてに○）

- | |
|-----------------------------|
| 1. 学級内で、互いに切磋琢磨できる環境が作れる |
| 2. 先生が目が一人ひとりに行き届く |
| 3. 集団内において様々な役割分担を経験できる |
| 4. 学級内の絆が強まる |
| 5. 社会性や協調性を育む機会に恵まれる |
| 6. 生徒一人ひとりに対して丁寧な指導が期待できる |
| 7. 学校行事や学習等において、多様な教育活動ができる |
| 8. 学級内の人間関係に変化がもてる |
| 9. その他 () |

問 13 中学校 1 学年あたりの学級数は、どの程度が望ましいと思いますか。(あてはまるもの 1 つに○)

- | | | |
|------------|-----------|-----------|
| 1. 1 学級 | 2. 2~3 学級 | 3. 4~6 学級 |
| 4. その他 () | | |

**問 14 問 13 の「中学校 1 学年あたりの望ましい学級数」を選んだ理由は何ですか。
(あてはまるものすべてに○)**

- | |
|----------------------------------|
| 1. 学級同士が切磋琢磨できる環境が作れる |
| 2. 異学年間の縦の交流が生まれやすい |
| 3. 学校全体に活気があり、学校行事が盛大にできる |
| 4. 生徒一人ひとりに対して丁寧な指導が期待できる |
| 5. 同じ生徒とずっと同じ学級で過ごせ、お互いの人間関係が深まる |
| 6. 様々な個性や考え方をもち友達とふれあえる |
| 7. ゆとりのある教育が受けられる |
| 8. クラス替えがあり、人間関係に変化がもてる |
| 9. 部活動の選択の幅が広がる |
| 10. その他 () |

**問 15 中学生の通学距離(通学時間)は、どの程度までならよいと思いますか。
(あてはまるもの 1 つに○)**

- | |
|-------------------------------------|
| 1. 500m (徒歩で約 10 分) まで |
| 2. 1.0km (徒歩で約 20 分) まで |
| 3. 1.5km (徒歩で約 30 分) まで |
| 4. 2.0km (徒歩で約 40 分、自転車で約 15 分) まで |
| 5. 3.0km (徒歩で約 60 分、自転車で約 20 分) まで |
| 6. 4.0km (徒歩で約 80 分、自転車で約 25 分) まで |
| 7. 5.0km (徒歩で約 90 分、自転車で約 30 分) まで |
| 8. 6.0km (徒歩で約 100 分、自転車で約 40 分) まで |

地域と学校の関わりについてお伺いします。

問 16 学校は、地域においてどのような役割を果たしていると思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 避難場所や防災器具・食料備蓄など防災の場
2. 空き教室利用など地域住民のコミュニティ活動や住民の場
3. 校庭や体育館の開放によるスポーツ活動の場
4. 運動会やお祭など地域のコミュニケーションの場
5. 児童生徒と地域住民が交流する場
6. 地域の伝統・歴史文化を継承し地域のシンボルとなる場
7. 児童生徒の放課後の活動の場
8. その他 ()

問 17 今後、さらに児童生徒数が少なくなることが想定されます。これからの大和郡山市における活力ある学校づくりに向けて、どのように検討を進めていくことがよいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

1. 現在の学校数のままでよい
2. 通学区域を見直して、適正な児童生徒数を確保する
3. 学校を統合し、適正な児童生徒数を確保する
4. 小中一貫等、新しい形態の学校を設置する
5. その他 ()

《 参 考 》

問 17 の選択肢 4「**小中一貫等、新しい形態の学校**」とは、小・中学校 9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を行うものです。
具体的には、下記の 2つの形態があります。

小中一貫型小学校・中学校	義務教育学校
既にある小・中学校を組み合わせ、一貫した教育を行う学校	小学校課程から中学校課程までの 9年間の義務教育を一貫して行う学校

※さらに、学校の立地により施設形態は以下のように分かれます。

- ・施設一体型：同一校舎内で小・中学校の運営を行い、一貫して教育を行う
- ・施設隣接型：隣接する小・中学校で一貫した教育を行う
- ・施設分離型：離れた場所にある小・中学校で一貫した教育を行う

問 18 大和郡山市の学校の適正規模・適正配置について、ご意見があればご自由にお書きください。

問 19 あなたがお住まいの校区の小中学校について、「地域との関わり」という観点から、ご意見があればご自由にお書きください。

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。同封の返信用封筒に入れて、
平成 31 年 2 月 25 日 (月) までに郵便ポストにご投函 (切手不要) ください。

学校の適正規模等に関する市民アンケート 調査結果報告書

平成 31 年 3 月

大和郡山市学校規模適正化等審議会
